



USER'S MANUAL

54Mbps 無線LANブロードバンドルータ

BLW-04G

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

54Mbps 無線LANブロードバンドルータ

BLW-04G

本製品を安全にご利用いただく為に

本製品のご利用に際して、以下の警告及び注意をご覧ください必ずお守り下さい。これらの事項が守られない場合は、「感電」「火災」「故障」等が発生する場合があります。これにより使用される方が負傷されたり死亡につながるおそれがあります。また、万が一に「発火」「発煙」「溶解」等が発生した場合には、速やかに本製品の利用を中止して弊社テクニカルサポートへご連絡いただく様にお願いいたします。

警告

■ 電波に関して

- ・心臓ペースメーカーや補聴器等の医療機器をご利用されている近くで本製品をご利用しないで下さい。
- ・医療機関内での利用は各医療機関の案内及び指示に従って下さい。
本製品の電波出力は低く抑えられておりますので各種医療機器への影響は少ないですが、前述のペースメーカー等への影響もある事から利用に関しては各医療機関の案内及び指示に従って下さい。これは各種医療機器へ影響を与えて事故の原因となるおそれを防ぐ為です。
詳しくは各医療機関へお問い合わせ下さい。
- ・電子レンジの近くで本製品をご利用しないで下さい。
電子レンジからの影響により本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。これにより通信が途絶えたり速度が遅くなったり等の動作が不安定になる事を防ぐ為です。

■ 設置及び保管に関して

- ・動作環境範囲外で利用しないで下さい。
範囲外の温度や湿度の環境にて利用されますと感電や火災等の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・直射日光の当たる場所や暖房器具等の近くで利用しないで下さい。
本製品が過熱する事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・温度変化の激しい場所で利用しないで下さい。
動作環境範囲内であっても温度変化が激しい場所で利用しますと結露等が発生して感電や火災等の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・水や液体が入った容器等を本製品ご利用する近くに置かないで下さい。
容器内の水等が本製品にこぼれる事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・本製品を改造及び分解しないで下さい。
改造や分解をする事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。また、改造は法律で禁止されています。

■ 無線機器に関して

- ・本製品で使用する周波数帯は、医療機器、電子レンジ等の産業・科学機器のほか工場の生産ライン等で使用される移動体識別装置用の構内無線局及び特定小電力無線局と重複している為、電波の干渉による障害が発生する可能性があります。本製品の使用を開始する前に必ず本製品の干渉距離内に移動体識別装置用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていない事を確認の上、使用を開始して下さい。
- ・万一本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波の干渉が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更するか本製品の利用を中止して下さい。
- ・その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの事が起きた場合には、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせ下さい。

■ 取り扱いに関して

- ・高温に注意して下さい。
本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると火傷のおそれがあります。
- ・湿気やほこりの多いところに置かないで下さい。
湿気やほこりの多い場所に置く事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動や故障の原因となるおそれがあります。
- ・重ねて置かないで下さい。
本製品を重ねて置く事で、不用意に落下したりする事によって故障の原因となるおそれがあります。
- ・振動の多い場所や不安定な場所で利用しないで下さい。
振動の多い場所や不安定な場所で利用する事で、落下したり本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。
- ・落下や衝撃に注意して下さい。
本製品を落下させたり衝撃を与えたりする事で、感電や火災の発生あるいは本製品の誤動作や故障の原因となるおそれがあります。

■ その他

- ・本製品は日本国内でのみ利用して下さい。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品となっておりますので海外での利用は出来ません。また、ご利用の際に各地域の法令や制例等によって利用が禁止されていたり、利用が制限されていないかご確認の上で本製品をご利用下さい。
- ・ご利用のコンピュータのバックアップをお取り下さい。
本製品のご利用に関わらず、コンピュータのバックアップを定期的にお取り下さい。これにより不用意なデータの消失や復旧不能時の回避策になるかと思います。尚、本製品のご利用に際してデータの消失等の障害が発生した場合でも弊社では保証致しかねる事を予めご了承下さい。

このマニュアルの構成

本マニュアルは54Mbps無線LANブロードバンドルータ bRoad Lanner BLW-04Gの概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

必ずお読みください.....

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

ご使用方法.....

第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 コンピュータの設定

本製品を使用したインターネットへのアクセスと本製品のWEBブラウザからの設定に必要なコンピュータの設定方法について説明します。

第4章 インターネット接続設定

本製品のインターネットへの接続設定について説明します。

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

第6章 具体的な運用例

本製品の各種機能について具体的な設定方法を解説します。

第7章 詳細設定

本製品のDHCPサーバ機能やローカルサーバ機能等のより詳しい機能の設定の方法について説明します。

付録.....

付録A ネットワークQ&A

ネットワークに関する素朴な疑問から「トラブルかな?」と思われる場合の対応方法について説明します。

付録B 工場出荷時設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定について説明します。

付録C 仕様

本製品の製品仕様です。

目次

本製品を安全にお使いいただくために	2・3
-------------------	-----

第1章 はじめに

1.概要	7
2.特長	8
3.梱包内容の確認	10
4.各部の名称	11
5.対応機器	15
6.設定の初期化	16

第2章 ハードウェアの接続

1.設置場所について	19
2.設置	20
3.WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する	21
4.LAN側ポートへのコンピュータの接続	22
5.電源の接続	23
6.接続の確認	24

第3章 コンピュータの設定

1.Windows 95/98/Me	25
2.Windows 2000	29
3.Windows XP	33
4.Macintosh	36

第4章 インターネット接続設定

1.インターネット接続方法の確認	37
2.PPoE接続の設定	39
3.DHCP接続の設定	45
4.固定IP接続の設定	50

第5章 ワイヤレスLANアクセスポイント

1.ワイヤレスLANアクセスポイントについて	55
2.ワイヤレスLANクライアントの設定	56

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

第6章 具体的な運用例

1.ポートを開放したい	65
2.ネットワークゲームをプレイしたい	68
3.コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい	71
4.アクセス制限を行いたい	73
5.アクセスできるコンピュータを限定したい	77
6.MACアドレスの調べ方	80

第7章 詳細設定

1.設定画面を開く	83
2.DHCPサーバ	85
3.アクセス制限	89
4.ローカルサーバ	93
5.バーチャルコンピュータ	95
6.管理設定	97
7.ステータス表示	102
8.ダイナミックルーティング	105
9.スタティックルーティング	107
10.ログ	109
11.Dynamic DNS	110
12.ワイヤレス設定	113
13.ファームウェアアップデート	121

付録A ネットワークQ&A

1.ルータの色々な「？」について	125
2.設定画面にアクセスできない	129
3.インターネットにアクセスできない	137
4.その他良くあるお問い合わせについて	149

付録B 工場出荷時設定

付録C 仕様

ユーザー登録について

弊社へのお問い合わせ

質問表

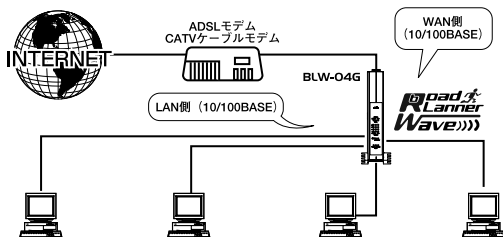
保証規定

はじめに

1 概要

本製品は、ADSL およびCATV（ケーブルTV）接続を使ったインターネット接続に対応したブロードバンドルータです。

NAT/IP マスカレード（NAPT）機能によって、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスできます。またIEEE 802.11gに対応したワイヤレスLAN機能を装備しており、無線アクセスポイントとしても使用可能です。本製品はWEB ブラウザによって、簡単にセットアップできます。



複数のパソコンで同時にインターネット！

図1-1 bRoad Lanner接続図

⚠ 注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合もあります。プロバイダとの契約内容についてご確認ください。

MIPS 32bitプロセッサによる快適ルーティング

ADSL、CATV接続などの各種インターネット回線に対応
NAT/IPマスカレード機能によって1つのIPアドレスを複数の
コンピュータで共有できます

WAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識に対応した
RJ-45 STPポートを1ポート装備

LAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識、Auto MDI/MDI-
Xに対応した4ポートスイッチングハブを内蔵

802.11g対応ワイヤレスLAN機能を装備、54Mbps無線ア
クセスポイントとして使用可能

WAN側ポートはDHCPクライアントに対応（CATV・
Yahoo!BB対応）

WAN側の接続方法は、通常接続のほかPPPoE接続・固定IP
接続に対応しています

LAN側ポートはDHCPサーバに対応（最大253クライアント
まで割り当てることができます）

無線部はWEP、ESS-IDおよびMACアドレスフィルタによる
セキュリティに対応

ローカルサーバ機能によってTCP/UDPプロトコルのポート
番号ごとに、LAN側のコンピュータにインターネットからア
クセスできます

バーチャルコンピュータ機能によって、LAN側のコンピュ
ータにインターネットからアクセスできます

簡易ファイアウォール機能を装備、インターネットからの攻
撃を防御します

フィルタ機能を装備、LAN側コンピュータのインターネットアクセスを制限できます

UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能に対応しています

Dynamic DNS（dyndns.org）サービスに対応しています
WEBブラウザから設定できます

3 梱包内容の確認

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確かめてください。

BLW-04G本体

専用アンテナ（本体装着済）

ACアダプタ

縦置き用スタンド

ツイストペアケーブル（ストレートタイプ：1m）1本

ショートコード1本

このユーザーズマニュアル

保証書（ユーザーズマニュアルの最後にあります）

不足品があるときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4 各部の名称

本体前面

1

はじめに

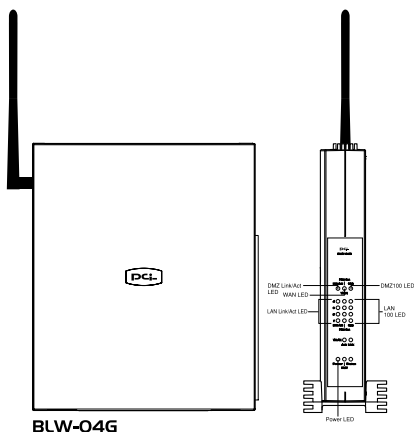


図1-2 BLW-04G本体正面

WAN・LANポート

「Link/Act」

ポートのリンクが確立しているときに点灯します。また、ポートがデータの送受信中には点滅します。

「FDX/Col」

ポートが全二重モードで通信を行うときに点灯します。またポートでコリジョンが検出されると点滅します。

「100M LED」

ポートのリンクが、100Mで確立しているときに点灯します。

ワイヤレスLAN

「Act」

ワイヤレスLANを利用した通信が行われるときに点滅します。

「Link」

ワイヤレスLAN機能が正常に動作しているときに点灯します。

電源

「Power」

本製品に電源が供給されているときに点灯します。

「DMZ」

DMZ設定を有効にしているときに点灯します。

「Status」

本製品の起動時とエラー発生時に点灯します。

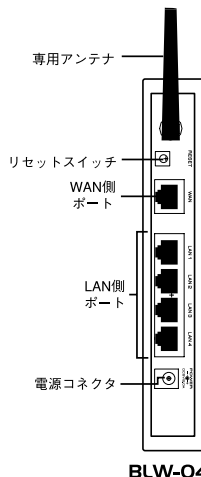


図1-3 BLW-04G本体背面

「WAN側ポート」

本製品をADSLまたはケーブルモデムと接続するためのRJ-45 STPポートです。

「LAN側ポート」

本製品にコンピュータを直接接続するためのRJ-45 STPポートです。

「リセットスイッチ」

本製品を再起動するときや、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。

「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。

本体裏面

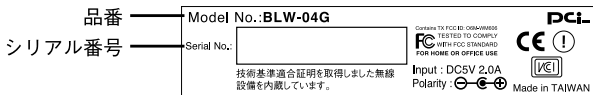


図1-4 BLW-04G本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要となります。

「LAN側MACアドレス」

本製品のLAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。

「WAN側MACアドレス」

本製品のWAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要なことがあります。そのときはこのWAN側ポートのMACアドレスをプロバイダに申請してください。

5 対応機器

1

はじめに

コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

イーサネット（有線）通信を使用する場合

Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

TCP/IPが利用可能なOS（Mac OS、各種UNIX等）を搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

ワイヤレス（無線）通信を使用する場合

Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、IEEE802.11/IEEE802.11bまたは、IEEE802.11gに準拠したワイヤレスLANカードもしくはワイヤレスLAN 通信機能を装備したコンピュータ

AirMacワイヤレスLANカードを装備したMacintoshコンピュータ

ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

ツイストペアケーブル（本製品に接続するコンピュータの台数分）

ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のADSL/ケーブルモデムに対応しています。

RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ADSLモデム

RJ-45（LAN）ポートを装備した外付ケーブルモデム

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまったときや、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときなどに設定の初期化が必要になることがあります。

注意

設定の初期化を行うと、LAN側/WAN側ポートの設定やワイヤレス設定、フィルタ設定等すべての設定が工場出荷時の状態に戻されます。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。
また予期せぬエラーを避けるために本製品に接続している機器を予めポートから外しておくことを推奨します。

本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。

1. 本製品の電源がONの状態で、インターネット接続を切断していることを確認します。
(WEB設定画面「ステータス表示」のWAN側IPアドレスが"0.0.0.0"になっていればOKです。)
切断方法については、7章「7.ステータス表示」の項目を参照してください。
2. 本製品背面のリセットスイッチを先のとがったペンなどで押します。
3. 約5秒間 (Statusランプが点灯するまで) リセットスイッチを押したままにしてください。
4. Statusランプが点灯したらリセットスイッチを離します。初期化が行われます。
Statusランプが消灯した時点で初期化完了となります。

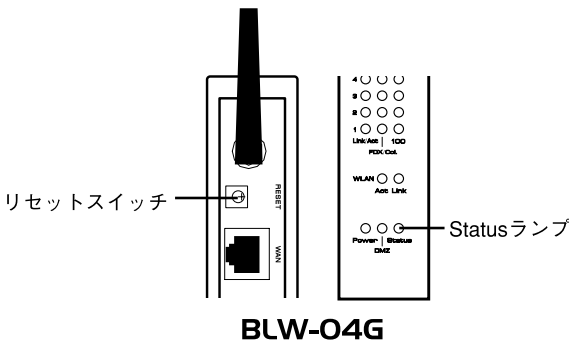


図1-5 リセットスイッチとStatusランプ

ハードウェアの接続

本 章では、本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータとの接続手順について説明します。

1 設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りくださいますようお願いします。

湿気の多い場所に設置しないでください。

チリやほこりの多い場所には設置しないでください。

直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しないでください。

内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空けてください。

注意

通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

2 設置

2

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使ってください。

縦置きする場合

本体を付属の縦置き用スタンドに図のようにセットしてください。

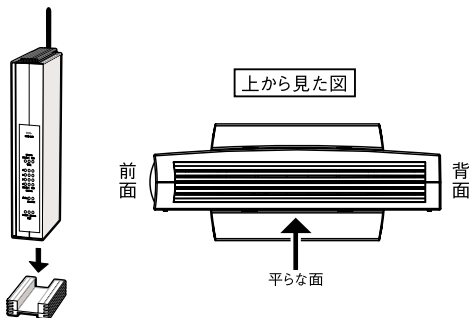


図2-1 縦置き

横置きする場合

図のように本体の平らな面が下になるように設置してください。

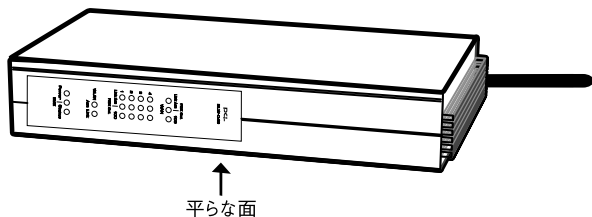


図2-2 横置き

3 WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
電源スイッチがないタイプはコンセントからACアダプタを引き抜いてください。
2. 本製品付属のツイストペアケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートを接続します。
 - ・ RJ-45ポート：モデムによっては「LAN」「Ethernet」などと表記されていることもあります。
 - ・ 本製品のWANポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI X に対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。

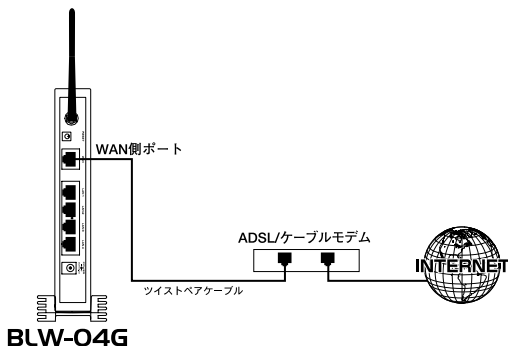


図2-3 ADSL/ケーブルモデムとの接続

4 LAN側ポートへのコンピュータの接続

1. ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN 側ポートに接続します。本製品のLAN 側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI X に対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ 45 ポートに接続します。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかり挿さっているか確認してください。

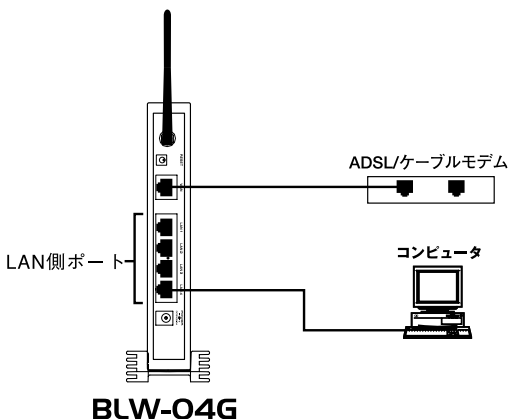


図2-4 コンピュータとの接続

5 電源の接続

2

ハードウェアの接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。
2. 本製品付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。
3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。スペースの問題でACアダプタをコンセントに直接接続できないときは付属のショートコードをお使いください。
4. コンピュータの電源を入れてください。
5. 次項の接続の確認に進んでください。

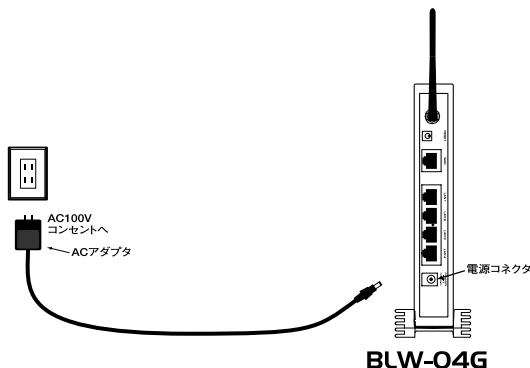


図2-5 電源の接続

⚠ 注意

ACアダプタは必ず本製品付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

6 接続の確認

2

ハードウェアの接続

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPOWER、WAN、LAN Link/Act、WLANの各LED が点灯します。これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてお確かめください。

POWER LED

- ・本製品付属のACアダプタを使っていますか？
- ・ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

WAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- ・使用しているツイストペアケーブルのタイプは間違っていないか？

LAN Link/Act LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・コンピュータの電源は入っていますか？

WLAN LED

- ・しばらく様子を見て下さい。それでも点灯しない場合は販売店または弊社テクニカルサポートまで連絡ください。

コンピュータの設定

3

コンピュータの設定

本 章では本製品を使ったインターネットへのアクセスとWEBブラウザから設定するために必要なコンピュータの設定手順について説明します。コンピュータの設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を完了させておいてください。

1 Windows 95/98/Me

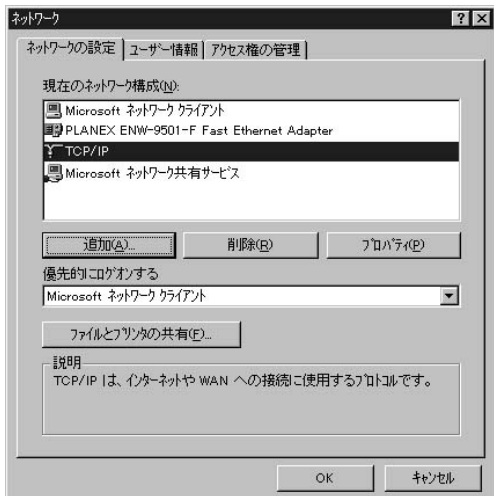
1. コンピュータにLANアダプタが装着され、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタが装着されていないときは、LANアダプタの追加導入を行ってください。

弊社では、PCIバス接続型のLANアダプタ「FW-110TX」をはじめ、ノートパソコンなどに便利なPCカードタイプの「FNW-3700-TX」などいろいろな形態のLANアダプタを取り扱っています。是非ご参考ください。

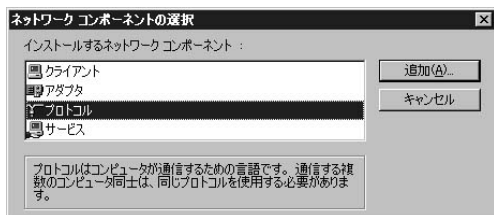
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確かめます。

「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」と選択します。

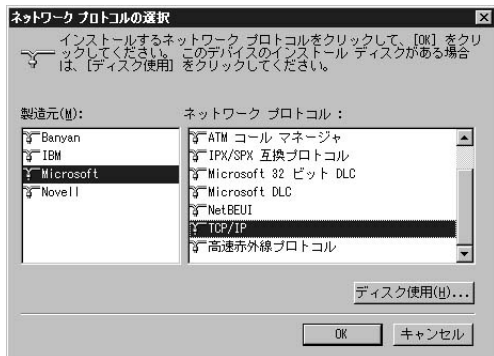
「現在のネットワーク構成」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは28ページの手順5に進んでください。



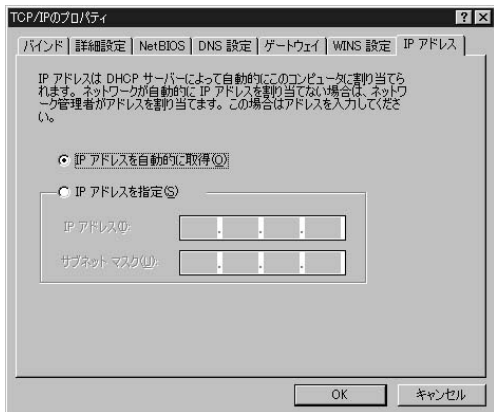
3. インストールされていないときは「追加」ボタンをクリックし、「インストールするネットワークコンポーネント」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



4. ネットワークプロトコルの選択で「製造元」に「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」には「TCP/IP」を選択して「OK」ボタンをクリックします。ネットワークのプロパティの画面に戻ります。



5. 「TCP/IP」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されるので、「IPアドレス」タブをクリックします。画面内の「IPアドレスを自動的に取得」オプションを選択し、コンピュータを再起動します。

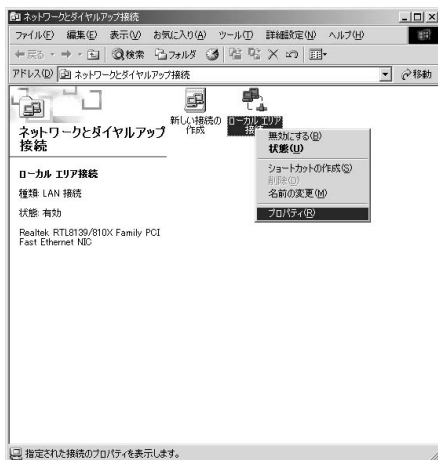


2 Windows 2000

3

コンピュータの設定

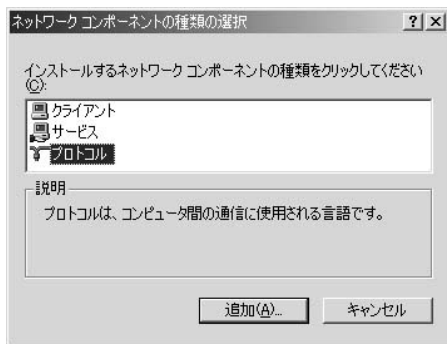
1. コンピュータにLANアダプタが装着され、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタが装着されていないときは、LANアダプタの追加導入を行ってください。
弊社では、PCIバス接続型のLANアダプタ「FW-110TX」をはじめ、ノートパソコンなどに便利なPCカードタイプの「FNW-3700-TX」などいろいろな形態のLANアダプタを取り扱っています。是非ご参考ください。
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確かめます。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワークとダイヤルアップ接続」と選択します。
3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。



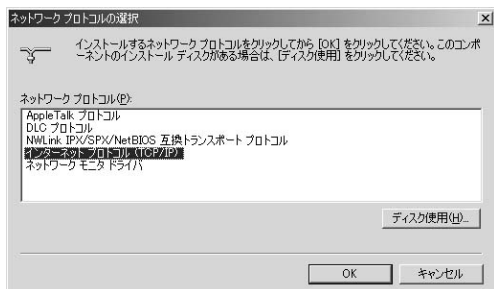
4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは手順7に進んでください。



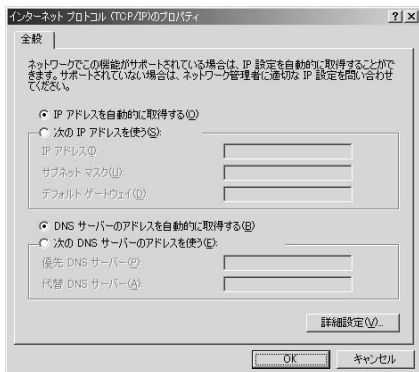
5. インストールされていないときは「インストール」ボタンをクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類の選択」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



6. 「ネットワークプロトコルの選択」で「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択して「OK」ボタンをクリックします。ローカルエリア接続のプロパティの画面に戻ります。



7. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル (TCP/IP)」の「プロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」の2つのオプションを選択し「OK」ボタンをクリックします。



8. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るのを
これを閉じてください。

3

コンピュータの設定

3 Windows XP

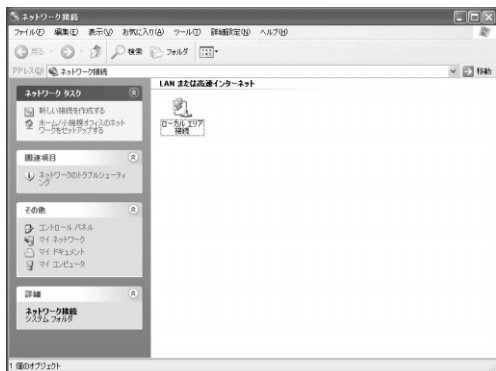
3

コンピュータの設定

1. コンピュータにLANアダプタが装着され、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタが装着されていないときは、LANアダプタの追加導入を行ってください。

弊社では、PCIバス接続型のLANアダプタ「FW-110TX」をはじめ、ノートパソコンなどに便利なPCカードタイプの「FNW-3700-TX」などいろいろな形態のLANアダプタを取り扱っています。是非ご参考ください。

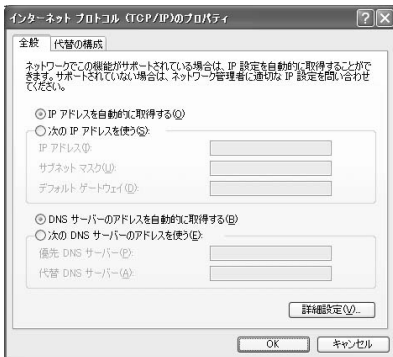
2. コンピュータでTCP/IPプロトコルが有効になっていることを確かめます。「スタート」メニューを開き、「マイコンピュータ」を選択します。表示された「マイコンピュータ」ウィンドウの左側の「その他」の中にある「マイネットワーク」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。「この接続は次の項目を使用します」欄の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」の左側のチェックボックスがチェックされているか確かめてください。チェックされていないときはチェックします。



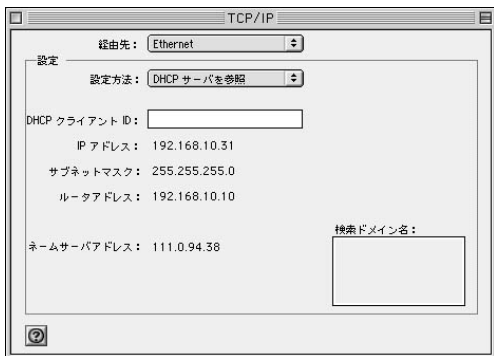
4. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブをクリックします。画面内の「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」のオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ったら、「閉じる」ボタンをクリックします。

4 Macintosh

1. アップルメニューから「コントロールパネル」「TCP/IP」と選択します。
2. TCP/IPの設定ウィンドウの「設定方法」を「DHCPサーバを参照」に設定します。



3. TCP/IPの設定ウィンドウを閉じて、Macintoshを再起動します。

インターネット接続設定

本 章では本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、必要最小限の設定だけで、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようにします。インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」および第3章「コンピュータの設定」を済ませておいてください。本製品をより詳細に設定したいときは、第7章「詳細設定」を参照してください。

1 インターネット接続方法の確認

本製品のインターネット接続の設定は、お客様が契約しているプロバイダとのサービス内容によって異なります。

次の中からお客様のプロバイダとの契約内容にあった接続方法を選択して、本製品の設定を行ってください。

また、契約プロバイダより案内されている接続設定情報を予め確認しておいてください。

PPPoE接続

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」や、東京めたりっく通信株式会社の「G-One（旧Single）」サービスなどで採用されているPPPoEプロトコルを使う接続方法です。接続にはユーザ名（アカウント名）とパスワードが必要です。

39ページの「4-2 PPPoE接続の設定」に進んでください。

DHCP接続

多くのケーブルテレビインターネット接続サービスや、ヤフー株式会社の「Yahoo! BB」などのサービスで採用されている、DHCPプロトコルを使ってIPアドレスが自動的に割り当てられる方法です。

45ページの「4-3 DHCP接続の設定」に進んでください。

固定IPアドレス接続

プロバイダから固定のIPアドレスが割り当てられるサービスでの接続方法です。

50ページの「4-4 固定IP接続の設定」に進んでください。

注意

本製品を@NetHomeまたは、ZAQでご使用になるときは、@NetHomeまたは、ZAQへのルータ使用の登録が必要です。(2003年4月現在)

2 PPPoE接続の設定

注意

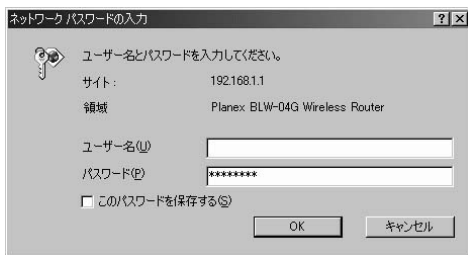
- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」 「インターネットオプション」 「接続」 「LANの設定」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。
- ・PPPoE接続の場合、本製品が接続処理を行うのでプロバイダから配布されるPPPoE接続ソフトウェアは必要ありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

4

インターネット接続設定

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」) に本製品のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、Enterキーを押します。

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「メインメニュー」の「基本設定」をクリックします。



5. 「基本設定」画面が表示されます。

インターネット接続設定項目のプルダウンメニューより「PPPoE接続」を選択してください。

PPPoE接続の設定画面が表示されます。以下の項目を入力します。

Planex SLW-04G Setup Menu - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

Planex **SLW-04G** **基本設定**

メニュー

- 基本設定
- 詳細設定
 - DHCPサーバ
 - アクセス制限
 - ローカルサーバ
 - バーチャルコンピュータ
 - 管理設定
 - ステータス表示
 - ダイナミックルーティング
 - スタティックルーティング
 - ログ
 - Dynamic DNS
 - ワイヤレス設定
 - ファームウェアアップデート

リスタート

基本設定

ホスト名:

ドメイン名:

タイムゾーン:

ローカルネットワーク設定

LAN側IPアドレス:

サブネットマスク:

ワイヤレス設定

ワイヤレス機能:

ESS-ID: ESS-IDを隠す: ☐

チャンネル: (周波数ドメイン: ARIB)

WEP: ☐ 有効 ☒ 無効

インターネット接続設定

(NACPPF レス: 000-00-00-00-00)

利用するインターネット接続方式を選択してください。

接続ユーザ名:

接続パスワード:

☐ 自動接続: アイドルタイム 分

☒ キープアライブ: 再接続時間 秒

「接続ユーザー名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

例：PCi123456@Planex.co.jp

「接続パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のパスワードを入力します。大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

入力内容はセキュリティのために[*（アスタリスク）]で隠されます。また、設定後は入力桁数からのパスワード推測を回避するために無条件に[*（アスタリスク）] 16桁表示でマスクされます。

例：pclBIW04g

「自動接続」

この機能を選択するとPPPoE接続が切断されている状態でも本製品に接続している機器からインターネットに向けて通信が行われた時に自動的にPPPoE接続が行われます。ユーザはPPPoE接続を意識することなくインターネット利用が即座に可能となります。

「アイドルタイム」

「自動接続」機能を指定している場合、インターネットへの通信がない状態が設定値以上続くと自動的にPPPoE接続が切断されます。

設定範囲：1～9999分

「キープアライブ」

本製品の再起動後や電源投入後にPPPoE接続動作が自動的に開始され接続を維持します。

PPPoE接続を監視して何らかの状況下で論理接続が遮断された場合でも接続が確立するまで再接続を試みます。

「再接続時間」

「キープアライブ」機能を指定している場合、再接続動作を行うまでの待機時間を設定します。

通常は初期値のままでも構いませんが再接続に失敗している状況が続く場合はこの値を大きくしてみてください。

設定範囲 : 1 ~ 9999秒

注意

「自動接続」「キープアライブ」機能はPPPoE接続についてのみ有効となります。
また、2つの機能はどちらか1つを選択して使用します。

- 各種入力内容を確認をして、「設定」ボタンをクリックしてください。
これにより設定内容が本製品に保存され、設定終了の画面が表示されます。
- PPPoE接続の状況を確認します。
WEB設定画面左側のメニュー - から「ステータス表示」をクリックしてください。



8. 「接続」ボタンをクリックします。

「ステータス」が「接続されました」と表示されていれば
PPPoE接続成功です。

PPPoE接続が成功したら、WEB設定画面左側のメニューから「ログアウト」ボタンをクリックすることで本製品の設定を終了します。
継続して各種設定を行う場合はそのまま該当するメニューをクリックしてください。

注意

- ・MTU値の設定に関しては7章「6.管理設定」を参照してください。
- ・「ステータス表示」の詳細については7章「7.ステータス表示」を参照してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。
- ・PPPoE接続が正常に行われない場合は、改めて設定内容を確認してください。

3 DHCP接続の設定

注意

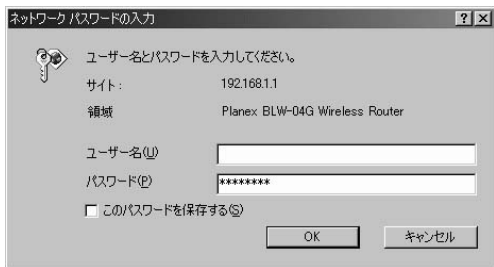
- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」 「インターネットオプション」 「接続」 「LANの設定」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)」にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のIPアドレス(デフォルト値は「192.168.1.1」)を入力し、Enterキーを押します。

4

インターネット接続設定

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「メインメニュー」の「基本設定」をクリックします。



5. 「基本設定」画面が表示されます。

インターネット接続設定項目のプルダウンメニューより「IPアドレスを自動的に取得」を選択してください。

DHCP接続の設定画面が表示されます。通常は設定変更の必要はありません。

これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。

入力が終わったら設定確認して「設定」ボタンをクリックします。

6. 接続状況を確認します。

WEB設定画面左側のメインメニューから「ステータス表示」をクリックしてください。



「ログイン」項目が「無効」と表示されていて「インターネット接続」の各IPアドレスが自動的に取得できていればDHCP接続成功です。

WAN側IPアドレスが「0.0.0.0」から変わらない場合は、「IPアドレスの開放」ボタンをクリックしてから「IPアドレスの再取得」ボタンをクリックしてIP再取得を行ってください。

DHCP接続が成功したら、WEB設定画面左側のメニューから「ログアウト」ボタンをクリックすることで本製品の設定を終了します。継続して各種設定を行う場合はそのまま該当するメニューをクリックしてください。

プロバイダから指定がある場合は以下の必要項目を入力します。

「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

注意

本製品を@NetHomeでご使用になるときは、@NetHomeへのルータ使用の登録をしたうえで、「ホスト名」欄に@NetHomeから指定されたサブドメイン名を設定してください。

プロバイダへ使用パソコンのMACアドレスを登録している場合について

プロバイダによってはインターネットに接続するPCのMACアドレスの登録が必要なことがあります。

すでにPCのMACアドレスが登録されているときは下記項目から設定を行ってください。

本製品のWANポートMACアドレスを既に登録してあるものに変更することで、プロバイダへの登録変更をすることなくインターネットに接続することができます。

1. WEB設定画面左側のメインメニューから「管理設定」をクリックしてください。
2. 「管理設定」画面が表示されます。
「WAN側MACアドレスの変更」項目のプルダウンメニュー「有効」を選択して、登録してあるMACアドレスを入力してください。入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックして設定を保存します。
3. 設定内容の反映を確認します。
WEB設定画面左側のメインメニューから「基本設定」をクリックしてください。
「インターネット接続設定」項目の最右部に表示されている「MACアドレス」が本製品のWAN側MACアドレスになります。

注意

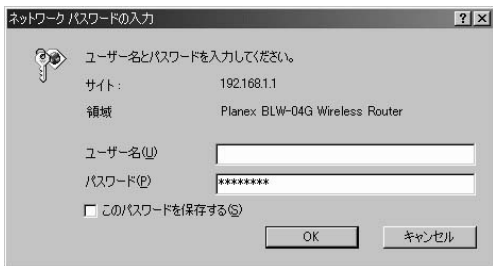
- ・接続が成功しないときは、ホスト名、ドメイン名などの設定に間違いがないか確かめてください。
- ・また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・「ステータス表示」の詳細については7章「7.ステータス表示」を参照してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

4 固定IP接続の設定

⚠ 注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」 「インターネットオプション」 「接続」 「LANの設定」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」) に本製品のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、Enterキーを押します。
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「メインメニュー」の「基本設定」をクリックします。



5. 「基本設定」画面が表示されます。
インターネット接続設定項目のプルダウンメニューより「IPアドレスを固定する」を選択してください。



6. IPアドレス・サブネットマスク・ゲートウェイ・DNSアドレス各項目が表示されます。

入力が終わったら入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックします。

「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「ゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

「DNSアドレス」

プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。

7. 接続状況を確認します。

WEB設定画面左側のメインメニューから「ステータス表示」をクリックしてください。

「ログイン」項目が「無効」と表示されていて「インターネット接続」の各IPアドレスが設定内容と一致していれば固定IP接続設定は終了です。



固定IP接続設定が終了したら、WEB設定画面左側のメニューから「ログアウト」ボタンをクリックすることで本製品の設定を終了します。継続して各種設定を行う場合はそのまま該当するメニューをクリックしてください。

インターネット接続についてプロバイダに使用パソコンのMACアドレスを登録している場合について

プロバイダによってはインターネットに接続するPCのMACアドレスの登録が必要なことがあります。

すでにPCのMACアドレスが登録しているときは下記項目から設定を行ってください。

本製品のWANポートMACアドレスを既に登録してあるものに変更することで、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。

1. WEB設定画面左側のメインニューから「管理設定」をクリックしてください。
2. 「管理設定」画面が表示されます。
「WAN側MACアドレスの変更」項目のプルダウンメニュー「有効」を選択して、登録してあるMACアドレスを入力してください。入力内容を確認して「設定」ボタンをクリックして設定を保存します。
3. 設定内容の反映を確認します。
WEB設定画面左側のメインニューから「基本設定」をクリックしてください。
「インターネット接続設定」項目の最右部に表示されている「MACアドレス」が本製品のWAN側MACアドレスになります。

注意

- ・接続が成功しないときは、IPアドレス、ホスト名、ドメイン名などの設定に間違いがないか確かめてください。
また、設定項目に不足がないかプロバイダから提供されている資料を再度確認してください。
- ・「ステータス表示」の詳細については7章「7.ステータス表示」を参照してください。
- ・インターネットに接続出来ない場合は、「付録A ネットワークQ&A」を参照してください。

ワイヤレスLANアクセスポイント

本 章では本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能を使用する方法について説明します。

1 ワイヤレスLANアクセスポイントについて

5

ワイヤレスLANアクセスポイント

本製品は、ワイヤレスLANネットワークと既存の有線部イーサネットネットワークとを接続するためのアクセスポイントとして機能します。

本製品を使用することで既存のイーサネットネットワーク資産を利用したワイヤレスLANネットワークをシームレスに構築することが可能です。本製品はIEEE802.11 および IEEE802.11b/11gに準拠し伝送速度は、54/48/36/24/18/12/11/9/6/5.5/2/1Mbpsに対応しています。またESSIDやWEP、MACアドレスフィルタなどに加え、ESS-IDを隠す機能を使用する事でより堅牢なセキュリティを保つことが出来ます。

「ESS-IDを隠す」機能を有効にすると、本製品はESS-IDの公開を停止します。これにより、他のワイヤレスLANクライアントがサイトサーベイを行っても本製品ワイヤレスLANアクセスポイントを検知できません。言い換えるとESS-IDを予め把握してる関係者だけ通信できることとなりセキュリティを確保したワイヤレスネットワークを運用することができます。

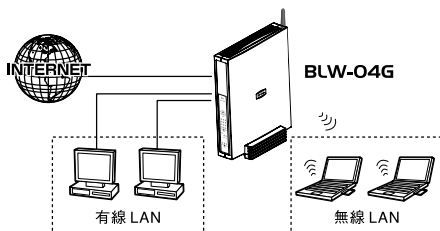


図5-1 ワイヤレスLAN構築例

2 ワイヤレスLANクライアントの設定

本製品にはIEEE802.11b/gに準拠したほとんどのワイヤレスLANカードでアクセスすることが可能です。ここではWindows 98/98 Second Edition/Me上で、**弊社製品GW-NS54Gを使用した場合を例にとって**、アクセスポイントにアクセスする場合の設定方法を説明します。GW-NS54GのインストールについてはGW-NS54Gに付属のマニュアルを参照してください。

WEPを使用しない場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を第7章「12.ワイヤレスLAN設定」を参照して下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW-04G	BLW-04G ESS-IDによりワイヤレスLANグループ "BLW-04G" が作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信が可能となります。 ESS-IDは任意の文字列を設定できます。 ここでは例としてこの値を使用します。
WEP設定	WEP無効	WEPによる暗号化を行いません。
ESSIDを隠す	無効	ESS-IDを公開します。 不特定のワイヤレスLANクライアントからの検索で検知されます。

表5-1 WEPを使用しない場合の設定

ワイヤレス設定		(MACアドレス: 00-00-00-00-00-00)
ワイヤレス機能:	11g & 11b ▼	
ESS-ID:	BLW-04G	ESS-IDを隠す: 無効 ▼
チャンネル:	6 ▼ (周波数ドメイン: ARIB)	
WEP:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="button" value="WEP設定"/>	

2. GW-NS54Gをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」「プログラム」「bRord Lanner Wave」「GW-NS54G Utility」を選択してください。GW-NS54Gの設定ユーティリティが起動します。



*ユーティリティ画面が展開されない場合は、画面右下タスクトレイのアイコンをクリックしてください。



3. 各設定項目を下記の通りに設定します。

タグ	項目	設定	説明
設定	プロファイル	BLW-04G	本製品専用プロファイルを作成します。
設定	無線モード	インフラストラクチャ	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
設定	ESS-ID	BLW-04G	BLW-04G ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	暗号	無効	WEPによる暗号化を行いません。

表5-2 ネットワーク各項目設定

5

ワイヤレスLANアクセスポイント

The image displays two screenshots of the PLANEX GW-NS54G Utility software interface, showing the configuration steps for a wireless LAN access point.

Top Screenshot: 設定 (Settings) Tab

- 接続情報 (Connection Information):** Includes tabs for 接続情報, 設定 (selected), サイトサーバイ, 暗号化, 詳細設定, and 情報.
- プロファイル (Profile):** A dropdown menu shows 'BLW-04G'. Buttons for 削除 (Delete), 新規作成 (New), and 適用 (Apply) are present.
- 設定変更 (Settings Change):**
 - 無線モード (Wireless Mode): 設定変更 (Settings Change) button.
 - ESS-ID: BLW-04G
 - 11e モード (11e Mode): 11b & 11e 両用 (Both)
 - チャンネル (Channel): 6
 - 省電力モード (Power Saving Mode): 無効 (Disabled)
- Buttons at the bottom: 初期化 (Initialize), 取り消し (Cancel), 設定 (Apply).

Bottom Screenshot: 暗号化 (Encryption) Tab

- 暗号化 (Encryption):** Includes tabs for 接続情報, 設定, サイトサーバイ, 暗号化 (selected), 詳細設定, and 情報.
- WEP設定 (WEP Settings):** A dropdown menu shows '無効' (Disabled).
- WEPキー (WEP Key):**
 - WEP設定 (WEP Settings): 無効 (Disabled)
 - WEPキー (WEP Key): 自動キー設定 (Automatic Key Setting) is selected.
 - キー 1, 2, 3, 4: Each has a text field with asterisks.
 - デフォルトキー (Default Key): 1
- Buttons at the bottom: 初期化 (Initialize), 取り消し (Cancel), 設定 (Apply).

4. 「OK」ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上でWEPを使用しない場合の設定は完了です。

64ビット(40ビット) WEPを使用する場合の設定

1. 本製品のワイヤレスLANの設定を行います。第7章「12ワイヤレスLAN設定」を参照してください。各項目を下記のように設定してください。設定変更後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
ESS-ID	BLW-04G	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
WEP設定	64bit (40bit)	64bit (40bit) WEPによる暗号化を行います。

表5-3 WEPを使用する場合の設定

ワイヤレス設定	(MACアドレス: 00-00-00-00-00-00)	
ワイヤレス機能:	11g & 11b	
ESS-ID:	BLW-04G	ESS-IDを隠す: <input checked="" type="checkbox"/> 有効
チャンネル:	6 (周波数ドメイン: ARIB)	
WEP:	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効 <input type="button" value="WEP設定"/>	

2. 本製品のWEPの設定を行います。「WEP設定」ボタンをクリックしてください。WEP設定画面が表示されるので、各項目を下記のように設定してください。設定変更後、「キーの作成」ボタンをクリックしてください。その後、「設定」ボタンをクリックして設定を保存してください。

項目	設定	説明
キー長	64bit (40bit)	WEP 64bit (40bit) WEPによる暗号化を行います。
キー文字列	0123456789	WEPキーを作成します。 64bitの場合10桁の16進数(0-9,A-E)でWEPキーを入力してください。アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じWEPキーを設定することでWEPキーを設定している通信機器のみが通信できるようになります。ここでは例としてこの値を使用します。
デフォルトキー	1	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-4 WEPを使用する場合の設定

WEPキーは64(40)bitまたは128bitのキー長に対応します。64(40)bitのWEPキーを使用する場合は、10桁の16進数(0-9,A-E)でWEPキーを指定してください。128bitのWEPキーを使用するときは26桁の16進数(0-9,A-E)でWEPキーを指定してください。

キー長:

キー1:

キー2:

キー3:

キー4:

デフォルトキー:

3. GW-NS54Gをインストールしたコンピュータから、「スタートメニュー」「プログラム」「bRord Lanner Wave」「GW-NS54G Utility」を選択してください。GW-NS54Gの設定ユーティリティが起動します。



*ユーティリティ画面が展開されない場合は、画面右下タスクトレイのアイコンをクリックしてください。



4. 各項目を下記の通りに設定します。

タグ	項目	設定	説明
設定	プロファイル	BLW-04G	本製品専用プロファイルを作成します。
設定	無線モード	インフラストラクチャ	アクセスポイントを使用して通信するモードです。
設定	ESS-ID	BLW-04G	ESS-IDによりワイヤレスLANグループが作成されます。 同じESS-IDを設定した機器同士でのみ通信できます。 任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	暗号	64bit	64ビット(40ビット) WEPによる暗号化を行います。
暗号化	キー	0123456789	WEPキーを作成します。 アクセスポイントと各ワイヤレスクライアントで同じWEPキーを設定します。任意の文字列を設定できます。ここでは例としてこの値を使用します。
暗号化	デフォルトキー	キー1	暗号化に使用するデフォルトキーを設定します。

表5-5 ネットワーク各項目設定





5. 「OK」ボタンをクリックして、ユーティリティを終了させてください。

以上で40ビットWEPを使用した場合の設定は完了です。

具体的な運用例

この章では具体的な運用方法を例に挙げて、BLW-04Gのどの機能を使って設定を行うのかをご案内します。

1 ポートを開放したい

BLW-04GのLAN側にあるコンピュータをサーバとして公開したり、ネットワークゲームをプレイする場合には、「ローカルサーバ」機能を使うことで特定のポートに対して外部（インターネット）からアクセスがあった場合に、BLW-04GのLAN側のコンピュータに通信を転送する設定を行うことができます。

Webサーバを公開したい

BLW-04GのLAN上のコンピュータをWebサーバとしてインターネットからアクセスできるようにする場合の設定例です。

BLW-04GのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. Webサーバとして公開するコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

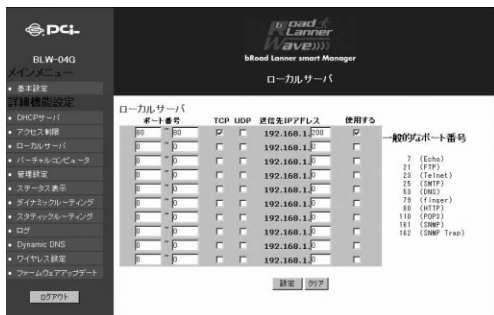
MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。「DNSサーバアドレス」がいくつかわからない場合は、BLW-04Gの設定画面から「詳細機能設定」の「ステータス表示」を選んで「DNSサーバ1」に表示されるアドレスを指定してください。

コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。

3. 「詳細機能設定」から「ローカルサーバ」をクリックしてください。

図のような画面が表示されますので、以下のように各項目を設定してください。



項目	設定	説明
ポート番号	80～80	HTTPはTCPポート80を使用しています
TCP	チェックします	
UDP	チェックしません	
送信先IPアドレス	200	WebサーバとなるコンピュータのIPアドレスの最後の数字を入力します
使用する	チェックします	

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

これで外部（インターネット）からBLW-04GのWAN側IPアドレスにアクセスがあると、そのアクセスがポート80宛だった場合はBLW-04GのLAN側の「192.168.1.200」のIPアドレスが設定されたコンピュータへ転送されます。

2 ネットワークゲームをプレイしたい

BLW-04GのLAN上のコンピュータでネットワークゲームをプレイする場合の設定例です。

ネットワークゲームは他のプレイヤーの操作した結果が、接続中のサーバから随時送信されてくるため、外部からアクセスが発生することになるので、サーバを公開する時と同じようにしてそのゲームで使用しているポートを開放する必要があります。

BLW-04GのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

6

具体的な運用例

1. ネットワークゲームをプレイするコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。

「DNSサーバアドレス」がいくつかわからない場合は、BLW-04Gの設定画面から「詳細機能設定」の「ステータス表示」を選んで「DNSサーバ1」に表示されるアドレスを指定してください。コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

上記の設定はあくまで一例です。ゲームによって使用するポートが異なってきますので、ゲームの説明書やヘルプ等を参照してそのゲームで使用しているポート番号を確認してください。（ただし、必要なポートを設定してもプレイできないゲームもありますので予めご了承ください）。

6

具体的な運用例

3 コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい

特定のポートだけを開放する「ローカルサーバ」に対して、バーチャルコンピュータは外部（インターネット）からの通信を指定したコンピュータにすべて転送します。ローカルサーバではうまく動作しなかった場合は、バーチャルコンピュータ機能を使用するとうまく動作できる場合があります。

1. バーチャルコンピュータにするコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。

「DNSサーバアドレス」がいくつかわからない場合は、BLW-04Gの設定画面から「詳細機能設定」の「ステータス表示」を選んでいただき「DNSサーバ1」に表示されるアドレスを指定してください。

コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。
3. 「詳細機能設定」から「バーチャルコンピュータ」をクリックしてください。
図のような画面が表示されますので、以下のように各項目を設定してください。



バーチャルコンピュータ機能を使用することで特定のローカルネットワーク側のホストがインターネットに直接接続されているかのように扱うことができます。

バーチャルコンピュータ： ☐ 有効 ☐ 192.168.1.200

項目	設定値
バーチャルコンピュータ	有効
右側の数字を入力する枠	200 バーチャルコンピュータにする コンピュータのIPアドレスの最後の数字です

4. 設定できましたら「設定」ボタンをクリックしてください。

ご利用のアプリケーションによってはバーチャルコンピュータ機能を使っても正常に動作しない場合があります。

バーチャルコンピュータ機能を使っても動作しない場合は、ルータ経由でのご利用が難しい可能性が高いかと思われます。

4 アクセス制限を行いたい

BLW-04GのLAN側のコンピュータに特定のサービス（Webアクセスやftpアクセス等）を利用させたくないような場合や、BLW-04Gを介してインターネットに接続できるコンピュータを制限したい場合には、「アクセス制限」を使うことで対象となるコンピュータとサービスのポートを指定したり、MACアドレスを指定することで制限をかけることができます。

この設定は、設定を間違えるとインターネットへのアクセスができなくなったり、特定のアプリケーションがインターネット接続時に利用できなくなることがありますので、機能を良く理解した上で設定を行うようにしてください。

ftpを利用できないようにしたい

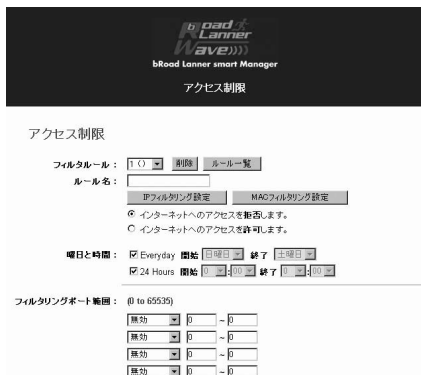
BLW-04GのLAN上の「192.168.1.5」のIPアドレスを取得しているコンピュータを、月～金曜の10～17時の間、ftpを利用させたくない場合の設定です。

BLW-04GのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

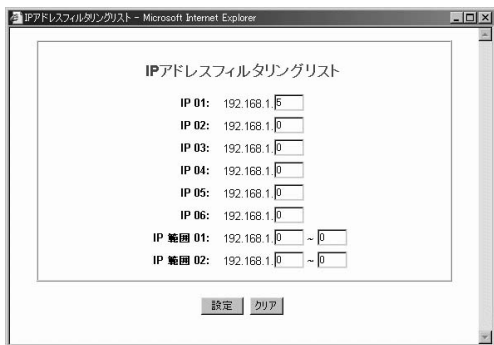
1. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。

2. 「詳細機能設定」から「アクセス制限」をクリックしてください。

図のような画面が表示されます。



3. 制限をかけたいコンピュータのIPアドレスを指定します。
「IPフィルタリング設定」ボタンをクリックしてください。
図のような画面が表示されます。以下のように各項目を設定してください。



IP01 : 5 ルールの対象となるコンピュータのIPアドレスの最後の数字を指定します

1台ずつ指定する場合は6個まで指定できます。それ以上の台数になる場合は「IP 範囲」で指定してください。

- 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。設定画面に戻りましたら「IPアドレスフィルタリングリスト」ウィンドウを閉じてください。
- 「アクセス制限」の各項目を以下のように設定してください。

アクセス制限

フィルタルール: [1] [削除] [ルール一覧]

ルール名: ftp制限

IPアドレスフィルタリング設定: [IPアドレスフィルタリング設定] [MACアドレスフィルタリング設定]

動作: ☒ インターネットへのアクセスを拒否します。
☐ インターネットへのアクセスを許可します。

曜日と時間: ☐ Everyday 開始 [月曜日] 終了 [日曜日]
☐ 24 Hours 開始 [1] 終了 [24]

フィルタリングポート範囲: 0 to 65535

TCP/UDP	20	21
拒否	0	0
拒否	0	0
拒否	0	0
拒否	0	0

項目	設定	説明
ルール名	ftp制限	ルール名は任意の名前を設定できます
インターネットへのアクセスを拒否します	チェックします	
曜日と時間	チェックします	「TCP&UDP」なので両方にチェックを入れます
Everyday	チェックを外します	
開始	月曜日	
終了	金曜日	
24 Hours	チェックを外してください	
開始	「10」「00」を選択します	
終了	「17」「00」を選択します	
フィルタリングポート範囲	「TCP/UDP」「20」「21」	

6

具体的な運用例

6. 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。

これで「192.168.1.5」のIPアドレスのコンピュータは、月曜から金曜の10時から17時の間はftpが利用できなくなります。

6

具体的な運用例

5 アクセスできるコンピュータを限定したい

BLW-04Gに接続してインターネットアクセスできるコンピュータを制限したい場合の設定です。この設定例では、特定のコンピュータ以外はBLW-04Gを介してインターネットにアクセスできなくなります。

BLW-04GのLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. WEBブラウザのURLを入力する欄（Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、Enterキーを押します。
2. 「詳細機能設定」から「アクセス制限」をクリックしてください。
図のような画面が表示されます。



アクセス制限

フィルタールール: 1 () 削除 ルール一覧

ルール名:

IPフィルタリング設定 MACフィルタリング設定

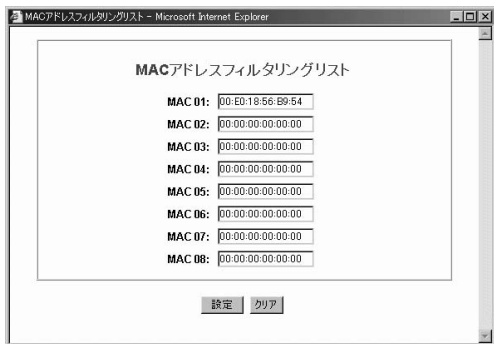
☒ インターネットへのアクセスを拒否します。
☐ インターネットへのアクセスを許可します。

曜日と時間: ☒ Everyday 開始 日曜日 終了 土曜日
☒ 24 Hours 開始 0 :00 終了 0 :00

フィルタリングポート範囲: (0 to 65535)

無効	0	~	0
無効	0	~	0
無効	0	~	0
無効	0	~	0

3. 制限をかけたいコンピュータのMACアドレスを指定します。
「MACフィルタリング設定」ボタンをクリックしてください。
図のような画面が表示されます。以下のように各項目を設定してください。
ここでは「00-E0-18-56-B9-54」というMACアドレスのコンピュータからのアクセスだけを許可すると仮定します。



MAC01：アクセスを許可するコンピュータのLANアダプタのMACアドレスを指定します

入力は2桁づつ「：（コロン）」で区切りながら入力してください。
MACアドレスの調べ方は後述のページをご覧ください。

4. 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。
画面が戻りましたら「MACアドレスフィルタリングリスト」ウィンドウを閉じてください。

5. 「アクセス制限」の各項目を以下のように設定してください。

アクセス制限

フィルタルール: 1 () 削除 添付ルール一覧

ルール名:

IPフィルタリング設定 MACフィルタリング設定

☒ インターネットへのアクセスを拒否します。
☐ インターネットへのアクセスを許可します。

曜日と時間: ☒ Everyday 開始 0:00 終了 24:00
☒ 24 Hours 開始 0:00 終了 24:00

フィルタリングポート範囲: 0 to 65535

無効 0 ~ 0
 無効 0 ~ 0
 無効 0 ~ 0
 無効 0 ~ 0

項目	設定	説明
ルール名	アクセス許可	ルール名は任意の名前を設定できます
インターネットへのアクセスを許可します	チェックします	
曜日と時間	ここでは制限の条件として「毎日」「1日中」と仮定します	
Everyday	チェックします	
24 Hours	チェックします	
フィルタリングポート範囲	全て「無効」にします	
24 Hours	チェックを外します	

6. 設定内容を確認して「設定」ボタンをクリックしてください。

これで「00-E0-18-56-B9-54」のMACアドレスのコンピュータ以外
 は、BLW-04Gに接続してもインターネットへアクセスできなくな
 ります。

接続できるコンピュータを増やす場合は、そのコンピュータの
 MACアドレスを調べて「3」からの設定を追加してください。

6 MACアドレスの調べ方

- ・BLW-04GからIPアドレスを取得している場合
(この方法が最も簡単です)

1. 設定画面のメニューから「DHCPサーバ」をクリックしてください。
2. 「DHCPクライアントテーブル」ボタンをクリックしてください。

1. 図のような画面が表示されます。



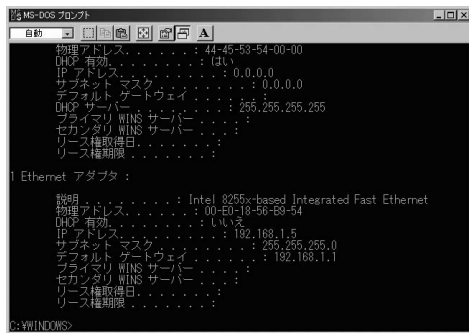
DHCPクライアントテーブル			更新
クライアントホスト名	IPアドレス	MACアドレス	削除
test	192.168.1.100	0800F0318084	<input type="checkbox"/>

その時点でBLW-04GからIPアドレスを取得しているコンピュータのリストが表示されますので、「MACアドレス」に表示されている12桁の16進数が、そのコンピュータのMACアドレスになります。

予めアクセスを許可したいコンピュータを全部接続して起動しておくくと便利です。

・コンピュータでIPアドレスを調べる場合（Windows）

1. 「スタート」=>「プログラム」を開いて「MS-DOSプロンプト」を選んでください。WindowsME/2000/XPの場合は「スタート」=>「プログラム」=>「アクセサリ」を開いていただき「コマンドプロンプト」を選んでください。



```
MS-DOS プロンプト
自動
物理アドレス. . . . . : 44-45-53-54-00-00
DHCP 有効. . . . . : はい
IP アドレス. . . . . : 0.0.0.0
サブネット マスク. . . . . : 0.0.0.0
デフォルト ゲートウェイ. . . . . :
DHCP サーバー. . . . . : 255.255.255.255
プライマリ WINS サーバー. . . . . :
セカンダリ WINS サーバー. . . . . :
リース権取得日. . . . . :
リース権期限. . . . . :

1 Ethernet アダプタ :
説明. . . . . : Intel 8255x-based Integrated Fast Ethernet
物理アドレス. . . . . : 00-E0-18-56-B9-54
DHCP 有効. . . . . : いいえ
IP アドレス. . . . . : 192.168.1.5
サブネット マスク. . . . . : 255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ. . . . . : 192.168.1.1
プライマリ WINS サーバー. . . . . :
セカンダリ WINS サーバー. . . . . :
リース権取得日. . . . . :
リース権期限. . . . . :

C:\WINDOWS>
```

2. カーソルが点滅して入力待ちの状態になりましたらキーボードから「ipconfig /all」と入力してEnterキーを押してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**（最後は任意の数字になります）」と表示されている行の2つ上くらいに「物理アドレス」という行があると思います。

表示されている12桁の16進数が、そのコンピュータのLANアダプタのMACアドレスになります。

詳細設定

こ こでは、WEBブラウザを使用して本製品の各機能の詳細な設定を行う手順を説明します。

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザをご利用になる必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご利用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使う設定になっていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」 「インターネットオプション」 「接続」 「LANの設定」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」 にプロキシの設定項目があります。プロキシを使わない設定にするか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力します。

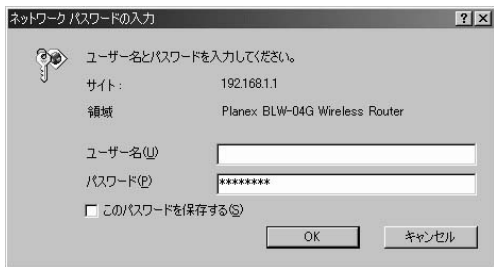
7

詳細設定

1 設定画面を開く

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Netscape では「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」) に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。工場出荷時や本製品の初期化後のLAN側ポートのIPアドレスは「192.168.1.1」です。

3. 設定画面にログインするためのパスワード入力画面が表示されます。パスワード欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。工場出荷時や本製品の初期化後のパスワードは「password」です。



4. 本製品の設定画面が表示されます。



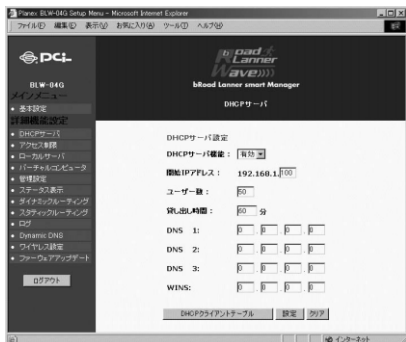
2 DHCPサーバ

本製品のDHCPサーバ機能の設定を行います。

DHCPサーバ機能はDHCPクライアント（PCなど）の要求に応じてIPアドレスなどのネットワーク情報割り当てを自動的に行います。これにより、本製品に接続するPCはネットワーク設定を意識せず同一ネットワークホストやインターネットへの通信を行うことができるようになります。（*1）

（*1） 各々のPCはDHCPサーバからの自動割り当てを受けるために3章「コンピュータの設定」に従って自動取得設定を有効にしておく必要があります。

DHCPサーバの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「DHCPサーバ」をクリックします。



「DHCPサーバ機能」

有効 : DHCP機能を有効にすると、DHCPクライアント機能を利用しているPCに下記設定内容に基づいてネットワーク情報の自動割り当てを行います。
(工場出荷時は有効になっています。)

無効 : 本製品のDHCPサーバ機能を利用しない場合に「無効」設定を行ってください。

例：本製品と別にDHCPサーバを設置している各PCのネットワーク情報を手動で設定管理を行う場合など

「開始アドレス」

DHCPサーバ機能の割り当てIPアドレス範囲の開始アドレスを指定します。

入力範囲： 1 ~ 254 初期値： 100

「ユーザ数」

「開始アドレス」から入力数分をDHCP割り当て範囲として設定します。

入力範囲： 1 ~ 253 初期値： 50

例：192.168.1.0/24のネットワーク設定下で「開始アドレス」を「20」、「ユーザ数」を「25」とした場合DHCP割り当て範囲は、192.168.1.20 ~ 192.168.1.44 となります。

「貸し出し時間」

DHCPサーバから割り当てるIPアドレスの貸し出し時間を設定します。

入力範囲： 1 ~ 9999 初期値： 60分

「DNSアドレス」

DHCP割り当ての際に付加するDNSアドレスを3つまで設定できます。

DNSアドレスをプロバイダから自動取得できる場合は、インターネット接続時に取得したDNSアドレスが自動的に適用されるので、空欄のままでも構いません。ここで設定されたDNSアドレスはインターネット接続時にプロバイダから取得したDNSアドレスよりも優先的に割り当て内容に反映されます。

「WINS」

ローカルネットワーク内でWINSサーバを利用している場合に限りWINSサーバのIPを入力してください。

通常、使用していない場合は空欄のままにしてください。

入力内容を確認し、間違いがなければ「**設定**」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[**ログアウト**]ボタンを押してください。

DHCPサーバ割り当て状況の確認

「DHCPクライアントテーブル」

DHCPサーバの割り当て状況が確認できます。

* linuxなど一部のOSによってはホスト名が正しく表示できない場合があります。



クライアントホスト名	IPアドレス	MACアドレス	削除
test	192.168.1.100	0800FC315004	<input type="checkbox"/>

7

詳細設定

⚠ 注意

- ・ DHCP サーバで割り当てるIP アドレス範囲に本製品のLAN 側ポートのIP アドレスが含まれないように設定してください。
- ・ DHCP割り当て範囲の設定は、「基本設定」の「ローカルネットワーク設定」と連動した範囲で行うようにしてください。

例えば、「LAN側IPアドレス」を192.168.1.1

「サブネットマスク」を255.255.255.240とした場合、

ネットワーク範囲は、192.168.1.0 ~ 192.168.1.15までとなります。ここで「開始アドレス」が " 100 " だった場合、DHCP割り当てを受けたホストは本製品との通信が出来なくなります。

3 アクセス制限

本製品は、LAN側のコンピュータをグループごとに管理して、WEB参照やE-mailの使用など特定のインターネットサービスの利用を曜日や時間を指定して制限することが可能です。制限ルールは最大10件まで登録でき同時に適用できます。

一つのルールごとに、以下のような形式をとります。

- ・対象とするコンピュータのIPアドレスまたは、MACアドレス
- ・制限する対象の方向（該当するもののみ/該当しないもの全て）
- ・ルールを適用させる時間帯
- ・管理するサービス（ポート範囲）

アクセス制限の設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「アクセス制限」をクリックします。



「フィルタルール」「ルール名」

設定するルールをプルダウンメニューから選択します。

また、必要に応じてルールごとに最大30文字までのルール名を設定できます。

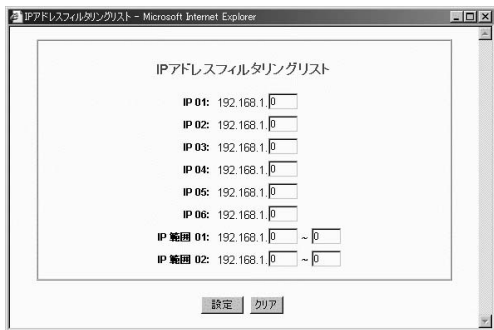
「ルルー一覧」

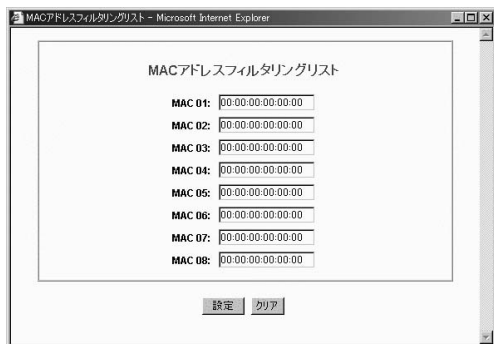
設定しているルルー一覧を確認できます。

また、不要になったルールは、チェックを入れて「削除」ボタンをクリックすることで解除できます。

「IPフィルタリング設定」「MACフィルタリング設定」

ルールを適用させる対象を、IPアドレスもしくはMACアドレスで指定します。





「インタ - ネットへのアクセスを拒否・許可します」

拒否：IP・MACアドレス設定で、指定されたコンピュータの通信のみがルールに適用されます。

リストに登録されていないコンピュータは通常通りインターネットへの通信が可能です。

許可：IP・MACアドレス設定で、指定されていないコンピュータの通信は全てルールに適用されます。

リストに登録されているコンピュータは通常通りインターネットへの通信が可能です。

「曜日」

「Everyday」にチェックが入っている場合、毎日ルールが適用されます。あるいは、日曜日を基点に範囲指定します。

「時間」

「24 Hours」にチェックが入っている場合、常時ルールが適用されます。

あるいは、0:00を基点に範囲指定します。

「フィルタリングポート範囲」

ルールを適用させるポート範囲を指定します。

使用するポート番号は、利用するアプリケーションによって異なります。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

7

詳細設定

4 ローカルサーバ

ローカルサーバ機能とは、LAN側に接続したコンピュータ上で動作しているサーバ（アプリケーション）にインターネット（WAN）側からアクセスできる機能です。ローカルサーバ機能では、TCP/UDPプロトコルのポート番号ごとに転送先のLAN側コンピュータのローカルIPアドレスを設定します。

ローカルサーバの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ローカルサーバ」をクリックします。



7

詳細設定

「ポート番号」

インターネット側からアクセスさせるサーバ（アプリケーション）で使用するポート番号を入力します。

本製品はWAN側公開ポートとLAN側の転送先ポートは同じポート番号を使用する方式になっています。入力範囲：「0～65535」

「TCP/UDP」

インターネット側からアクセスさせるサーバ（アプリケーション）で使用するプロトコルのどちらかもしくは両方にチェックを入れます。

「送信先IPアドレス」

インターネット側からのアクセスを転送する（インターネットに公開する）LAN側のコンピュータのIPアドレスを入力します。入力範囲：「0～254」

「使用する」

該当するローカルサーバ設定を有効にする場合にチェックを入れてください。

チェックを外しても、設定自体は保存されるので使用形態によって必要な設定だけ動作させることができます。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

5 バーチャルコンピュータ

バーチャルコンピュータ機能とは、LAN側のコンピュータにインターネット（WAN）側からアクセスする機能で、DMZ（DeMilitarized Zone）とよばれることもあります。バーチャルコンピュータを設定すると、インターネットからの本製品WAN側ポートのグローバルIPアドレスへ送られてくる不明なパケットをすべて設定したバーチャルコンピュータに転送させることができます。これにより、設定したローカルネットワーク側のコンピュータがインターネットに直接接続しているかのような環境を用意することができます。

⚠ 注意

バーチャルコンピュータ機能を有効にすると、バーチャルコンピュータに設定したコンピュータに対してファイアウォール機能が無効な状態になります。予め対象となるコンピュータ本体のセキュリティ設定を十分に行った上でご利用になるか、必要時以外はこの機能を無効にしておくことを推奨します。

バーチャルコンピュータの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「バーチャルコンピュータ」をクリックします。



7

詳細設定

「有効/無効」

本製品のバーチャルコンピュータ機能の動作を選択します。

*「有効」を選択しないと、IPアドレスの設定ができません。

「あて先アドレス」

バーチャルコンピュータに設定するコンピュータのIPアドレスを入力します。

入力範囲：「0～254」

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

バーチャルコンピュータ設定が有効になると、本製品正面の「DMZ」LEDが点灯します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

7

詳細設定

6 管理設定

本製品のWEB設定に関する設定などを行います。

ここでは、本製品のファームウェアバージョンの確認や管理者設定が行えます。管理者設定は本製品にアクセスする為の条件などを設定します。不用意な変更を行うと本製品にアクセスできなくなる場合がありますので、十分注意して作業を行ってください。各自の変更内容は項目を選択後、「設定」ボタンをクリックすることで反映されますので、それぞれ確認しながら作業を進めてください。

管理者設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「管理設定」をクリックします。



7

詳細設定

「ファームウェアバージョン」

本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。

*ファームウェアとは？

本製品を制御するためのプログラムにあたるものです。

機能追加・仕様変更などを施した最新のファームウェアが弊社のホームページから公開されるとダウンロードしてWWW設定画面上でアップグレードすることができます。

http://www.planex.co.jp/support/download/driver_router.shtml

このとき、このファームウェアバージョンを参照して頂くことにより該当するファームウェアであるかなどを確認することができます。

「管理者パスワード設定」

WEB設定画面にログインするためのパスワード設定します。

WEB設定画面へのログインパスワードは工場出荷時「password」に設定されています。

セキュリティ上、管理者パスワードの変更を推奨します。

この欄に文字を入力してもセキュリティのため“*”(アスタリスク)表示されます。

入力範囲：最大63文字(英数半角文字・スペースは使用できません)

「WAN側MACアドレスの変更」

本製品のWAN側ポートに設定されているMACアドレスを変更することができます。

通常は変更の必要はありません。詳しくは、4章「3.DHCP接続の設定」の「プロバイダへ使用パソコンのMACアドレスを登録している場合について」を参照してください。

「インターネット側からの設定」

この設定を有効にした場合、遠隔地（WAN側）から本製品のWEB設定画面にアクセスできるようになります。

このリモートアクセスを許可する場合には、プルダウンメニューを「有効」に変更します。WAN側からの設定を許可した状態で、インターネットに接続するとインターネットから不正にアクセスされる危険があります。WAN側からの設定を許可する場合には事前に**管理者パスワード**と、**WAN側ログインポート番号の変更**を行うなど対策を行ってから許可することを推奨します。

「WAN側ログインポート番号」

WEB設定画面へアクセスするときのポート番号を変更できます。

ポート番号を変更することで、不正にアクセスされる危険性を低減できます。

ポート番号を変更後、WAN側からWEB設定画面にログインするには、以下の通りにURLを入力してください。

例：ログインポート番号を「8080」に変更、WAN側IPアドレスが

192.100.1.1の場合

「http://192.100.1.1:8080」でログイン出来るようになります。

入力範囲：1～65535

「MTU値」

PPPoE接続時のMTU（Maximum Transfer Unit）値を変更します。通常は工場出荷時の自動設定を変更する必要はありません。不用意に変更すると通信ができなくなったり、特定のサイトやアプリケーションが使用できなくなったり、パフォーマンスが著しく低下したりするので注意してください。通信に異常がある場合、この値を小さく設定することで現象が改善されることがあります。フレッツADSLにおけるMTU最大値は「1454」となります。入力範囲：576～1492です。

「ステルスモード」

ステルスモード有効の場合、WAN側IPアドレスに送られてきたping（ICMP Echo Request）に対して本製品は返答しません。通常時はこのままの設定で構いません。通信環境の試験を行うときなど必要に応じたときのみ「無効」設定を利用することを推奨します。

「ユニバーサルプラグアンドプレイ」

この項目を「有効」にするとUPnP機能が有効になります。工場出荷時は「有効」になっていますので、通常はそのままで構いません。ご利用になるコンピュータがUPnPに対応していない場合やUPnP機能を使用しない構成を意図する場合に「無効」を選択します。

「工場出荷時の設定に戻す」

本製品の全ての設定を工場出荷時のものに戻すことができます。
ラジオボタン「戻す」を選択してから、「設定」ボタンをクリック
することで初期化が行われます。

注意

必要に応じて設定情報を控えておいてから初期化を行うことを推奨します。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリック
してください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは【ログアウト】ボタンを押してください。

7 ステータス表示

「ステータス表示」では本製品のインターネット接続状況などを確認できます。また、ここで任意的にインターネット接続を接続・切断する処置が行えます。

ステータス表示の確認を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ステータス表示」をクリックします。



「PPPoE接続」

インターネット接続方式を「PPPoE接続」に選択している場合、現在の状況を示します。

(DHCP・固定接続などの場合は「無効」と表示されます。)

「接続/切断」

インターネット接続を「PPPoE接続」で行っている場合に 표시됩니다。

通常、「自動接続」が有効になっていれば、インターネット側に向けて何らかの通信要求を出すことで接続処理が行われるので手動で接続を行う必要はありません。任意で接続/切断を行う際にクリックしてください。

インターネット接続

「時刻」

インターネット接続時に本製品がNTPサーバから取得した時間が表示されます。インターネット接続していない時や、何らかの原因で時刻情報を取得できなかった場合は「利用不可」と表示されます。

「WAN側IPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ」

プロバイダから取得したIPアドレスなど接続情報が表示されます。WAN側から本製品にアクセスするIPアドレスはこれになります。

「DNSサーバ」

プロバイダから取得したDNSアドレスが表示されます。

本製品の「DHCPサーバ機能」でDNSアドレスを手動設定してる場合はそちらを上位に表示します。

*インターネット接続を「DHCP接続」で行っている場合

「DHCP残りリース時間」

本製品がプロバイダ側DHCPサーバから通知された貸し出し残り時間が表示されます。

「IPアドレスの開放/再取得」

本製品は通常、自動的に接続・更新を行うので手動で開放/接続操作を行う必要はありません。

通信のタイミングによって、通信が確立しない時や任意で通信を終了させる場合にこのボタンをクリックします。

「ローカルネットワーク」

本製品のLAN側設定が表示されます。

設定内容は「基本設定」の「ローカルネットワーク設定」で登録されたものになります。

「DHCPクライアントテーブル」

本製品DHCPサーバの割り当て状況が確認できます。

* linuxなど一部のOSによってはホスト名が正しく表示できない場合があります。



DHCPサーバ IPアドレス :		192.168.1.1		更新
クライアントホスト名	IPアドレス	MACアドレス	削除	
test	192.168.1.100	08:00:FC:31:30:84	<input type="checkbox"/>	

⚠ 注意

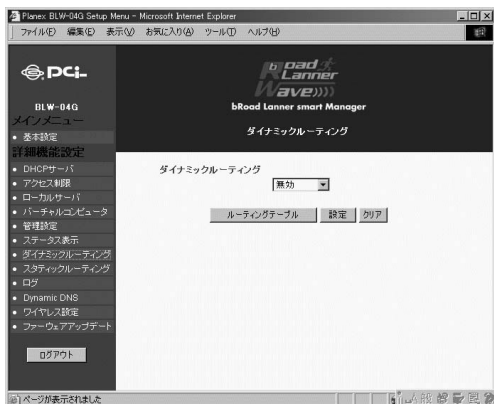
PPPoE接続時、本製品は接続処理を試みて何らかの原因で接続が確立できなかった時に処理を中断し接続失敗のアナウンスを出します。最初の接続でこれが出た場合は接続アカウント・パスワードが適切に入力されていない事がありますので再度確認してください。

8 ダイナミックルーティング

本製品は、ダイナミックルーティングプロトコルRIP (v1/v2) に対応しています。

この機能を有効にすると本製品に設定されているルーティング情報をネットワークに広告するようになります。

ダイナミックルーティングの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ダイナミックルーティング」をクリックします。

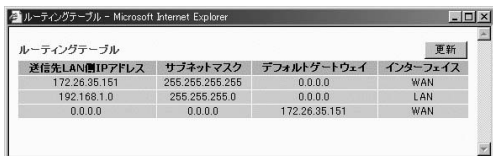


7

詳細設定

プルダウンメニューから機能の有効・無効と広告する方向を選択します。

広告する内容は、「ルーティングテーブル」で確認します。



送信先LAN側IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ	インターフェイス
172.26.35.151	255.255.255.255	0.0.0.0	WAN
192.168.1.0	255.255.255.0	0.0.0.0	LAN
0.0.0.0	0.0.0.0	172.26.35.151	WAN

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

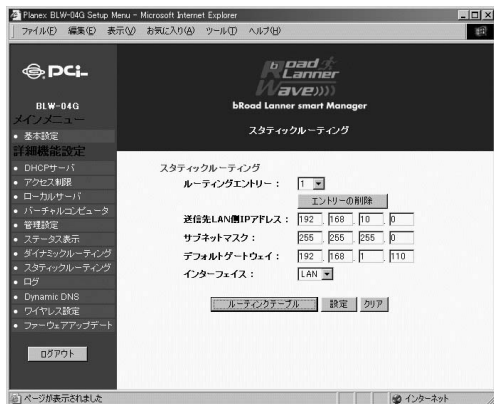
設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

注意

工場出荷時設定では本機能は無効になっています。この機能を有効にする場合、他のネットワーク機器に影響を与えることになりますので、ご利用になるネットワーク環境について十分把握した上でご利用ください。

9 スタティックルーティング

本製品では、静的経路情報を20件まで追加することが可能です。スタティックルーティングの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「スタティックルーティング」をクリックします。



7

詳細設定

「ルーティングエントリー」

プルダウンメニューから設定する項目を選択します。

「エントリーの削除」

上記の「ルーティングエントリー」から該当する経路情報を指定して削除します。

「送信先LAN側IPアドレス」

送信先のネットワークアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

送信先ネットワークのネットマスクを入力します。

「デフォルトゲートウェイ」

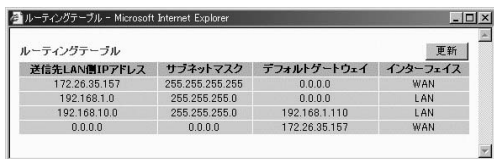
送信先アドレスへのゲートウェイとなるIPアドレスを入力します。

「インターフェース」

使用するインターフェースを指定します。

「ルーティングテーブル」

クリックすると設定している経路情報の一覧が表示されます。



送信先LAN側IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ	インターフェース
172.26.35.157	255.255.255.255	0.0.0.0	WAN
192.168.1.0	255.255.255.0	0.0.0.0	LAN
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.1.110	LAN
0.0.0.0	0.0.0.0	172.26.35.157	WAN

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

⚠ 注意

新規にルーティング情報を定義するにはTCP/IPについてのより高度な知識が要求されます。間違った経路情報を定義すると、IPネットワーク全体の通信が止まってしまう恐れもあります。ルーティング情報の定義を行う前に、ネットワーク管理者と相談し、追加するルーティング情報に問題が無いがよく確認してください。

10 ログ

本製品は、LAN-WAN間を通過する通信についてログ（通信記録）を確認することができます。

ログの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ログ」をクリックします。



7

詳細設定

「ログの保存」

プルダウンメニューから「有効」を選択する事でログを記録するようになります。

「ログの表示」

記録された通信記録を確認できます。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

11 Dynamic DNS

本製品はwww.dyndns.org により提供されているDynamic DNS サービスに対応しています。

dyndns.org に登録してあるユーザ名、パスワード、ドメイン名的情報を本製品に設定しておくことにより、自動的に登録内容の更新を行います。この機能を利用することで本製品を利用してWEBサーバなどを公開する際、ユーザがドメイン名を指定することで公開サーバにアクセスすることができます。つまり本製品がインターネットへ接続するたびに取得するIPアドレスが異なっても自動的にIPアドレスの更新をDDNSサーバに対して行うのでユーザは常に同じドメイン名でアクセスすることができます。サービスの詳細は、<http://www.dyndns.org/> をご覧ください。

▲ 注意

この機能を利用するには、事前に<http://www.dyndns.org/> にアクセスしてドメインの登録が必要となります。

Dynamic DNSの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「Dynamic DNS」をクリックします。



「Dynamic DNSを使用する」

プルダウンメニューから本製品のDDNS機能の動作を選択します。
工場出荷時では、無効になっています。

「ユーザー名」

dyndns.org に登録したユーザ名を入力します。
入力内容は、半角英数字で最大15文字まで登録できます。

「パスワード」

dyndns.org に登録したパスワードを入力します。
入力内容は、半角英数字で最大30文字まで登録できます。

「ホスト名」

dyndns.org に登録したドメイン名を入力します。
入力内容は、半角英数字で最大48文字まで登録できます。

「状態」

本製品についてDDNSサーバとの更新状況が表示されます。

入力内容を確認し、間違いがなければ「**設定**」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[**ログアウト**] ボタンを押してください。

確認方法

本製品のLAN側にWebサーバを設置して、Webサーバを公開する手順でローカルサーバ設定を行います。登録取得しているドメイン名が「blw04g.dyndns.org」の場合、WEBブラウザのURL欄に「http://blw04g.dyndns.org」と入力して設定してあるWEBページが表示されれば成功です。

これでインターネットからドメイン名を指定することで本製品のLAN側のWebサーバにアクセスすることができますようになります。

BLW-04Gが取得したWAN側IPアドレスが変更されると、DynDNSに登録されているIPアドレスの更新を、BLW-04Gが自動的に行います。

取得しているIPアドレスが変わらない場合は自動的に更新作業は行いません。その場合30日以上IPが更新されないとDynDNSからIPアドレスを更新するよう促すメールが届きますので、その場合は設定画面から「Dynamic DNS」をクリックしていただき「設定」のボタンをクリックしてください。IPが変更されてないということで更新されますので、そのまま登録したドメイン名の利用を続けることができます。

12 ワイヤレス設定

本製品のワイヤレスLANアクセスポイント機能（以後、AP）について設定を行います。

ワイヤレス設定を行うにはWEB設定画面左側のメニューから「メインメニュー」の「基本設定」をクリックします。



7

詳細設定

ワイヤレス設定 (MACアドレス: 00-10-10-10-10-10)
 ワイヤレス機能: 11g & 11b
 ESS-ID: BLW-04G ESS-IDを隠す: 有効
 チャンネル: 6 (周波数ドメイン: ARIB)
 WEP: ☒ 有効 ☐ 無効 WEP設定

ワイヤレス設定

「ワイヤレス機能」

本製品は、無線LAN規格IEEE802.11b/11g < draft > に対応しています。通常は、「11g&11b」モードを使うことで11g/11b両製品との無線通信を同時に行うことができます。

11g方式しか使用しない場合は「11g」を選択してください。

また、ワイヤレス機能を使用しないときは、「無効」を選択してください。

初期値：「11g&11b」

「ESS-ID」

ワイヤレスLANアクセスポイントを識別する名前になります。

ESS ID を設定する事により無線LAN グループを作成する事が可能になり、同じIDをもつコンピュータしか本製品と通信をおこなう事が出来ません。

出荷時設定では「BLW-04G」となっていますので、接続するワイヤレスLAN機器のESS-IDを「BLW-04G」に設定してください。

入力範囲：最大32文字（英数字半角）

「ESS-IDを隠す」

ESS-IDを隠す（公開しない）ことにより、他のワイヤレスLANクライアントがサイトサーベイを行っても本製品ワイヤレスLANアクセスポイントを検知できません。言い換えるとESS-IDを予め把握してる関係者だけ通信できることとなりセキュリティアップできます。工場出荷時設定では「無効」になっています。

「チャンネル」

1～13まで使用チャンネルを選択できます。

同じ室内に複数APが存在する場合、同一チャンネルを使用していると通信が正しく行えないことがあります。他のAPとチャンネルをずらすことで混信を回避できます。

初期値：6チャンネル

「WEP」

WEP機能は無線通信自体を暗号化することで、ワイヤレスLANネットワークをセキュリティの高い状態で利用することができます。

WEP機能を利用する場合は「有効」を選択します。

WEP機能は、WEPキーを設定する必要があります。

WEPキーなどの設定については5章の「40ビット（64ビット）WEPを使用する場合の設定」を参照してください。

初期値：「無効」

注意

WEP機能は本製品と通信する無線LAN機器にも同様の設定を行う必要があります。詳しくは製品のマニュアルを参照してください。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは「ログアウト」ボタンを押してください。

ワイヤレス機能詳細について設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ワイヤレス設定」をクリックします。



ワイヤレス機能詳細設定

「ビーコン間隔」

本製品APから送出するビーコンの間隔を設定します。ワイヤレスLANクライアントはビーコン信号が良い状態のAPと接続を行います。ビーコンの間隔が短い場合はAPを認識する時間が短くなるまたはローミングがすばやく行えるなどが可能になりますがデータの送信時間に影響します。

初期値：100（ミリ秒） 設定範囲：1 - 65535

「RTSしきい値」

RTSしきい値で指定したサイズ以上のパケットを送信する場合にRTS（送信要求）パケットを送信します。多くのクライアントが一つのAPに集中した場合、相互に認識されない状態（かくれ端末）になる事があります。この場合この値を小さくすることで改善されます。

初期値：2347、設定範囲：0 - 2347

「フラグメントしきい値」

本製品APを経由するパケットの分割サイズを指定します。指定したサイズより大きなパケットは、ここで指定したサイズに分割されます。電波状態が悪いときや接続クライアントが多い場合には値を小さくすることで改善されますが、オーバーヘッドが増えるためにスループットは下がります。通常はデフォルト値を推奨します。

初期値：2346、設定範囲：256 - 2346

「DTIM間隔」

DTIM (delivery traffic indication message) パケットを送出する間隔を設定します。

DTIMは放送信号のついた2つのシンクロナスフレーム間の間隔です。値を「2」にすると、アクセスポイントは全ての同報通信フレームを第2ビーコン毎に送信します。DTIM間隔を短くすると、端末は受信状態を継続して同報データを受信しつづけることになり電力効率が低下します。

初期値 : 3、設定範囲 : 1 - 255

「送信速度」

本製品APの送信レートを設定します。工場出荷時は「自動」になっており、通常はそのままで構いません。通信状況の最適化を図ったりワイヤレスLANクライアントとの連携を改善する場合などに変更します。

「認証方式」

WEP キーの認証タイプを選択します。WEP キーにはオープンシステムとシェアードの2つの方式があります。

工場出荷時設定ではオープン/シェアードの両方に対応しています。

MACアドレスフィルタリング

本製品APは、MACアドレスを監視することでワイヤレスLANクライアントとの通信を制御できます。

これにより、特定のユーザだけを本製品APの無線LANネットワークに参加させることや、一部の不正ユーザからの通信を排除した構成が可能となります。

* 有線LANクライアントに対してはここでのフィルタリングを適応させることはできません。

「無効/有効」

ワイヤレスLANクライアントに対してのMACアドレスフィルタリング機能を動作を選択します。

「フィルタリングリストに登録された無線クライアントのみアクセスを禁止します」

フィルタリングリストに登録されたワイヤレスLANクライアントの一切の通信を受け付けません。

リストに登録されていないワイヤレスLANクライアントは通常通り本製品APを介した通信が可能です。

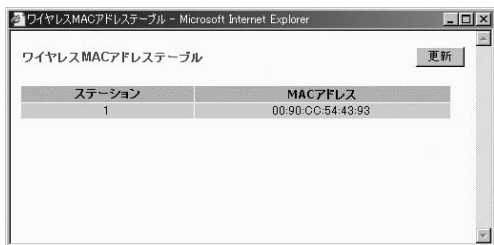
「フィルタリングリストに登録された無線クライアントのみアクセスを許可します」

フィルタリングリストに登録されたワイヤレスLANクライアントからの通信しか本製品APは受け付けません。

リストに登録されていないワイヤレスLANクライアントに対して本製品APは一切の通信を受け付けません。

「MACアドレステーブル」

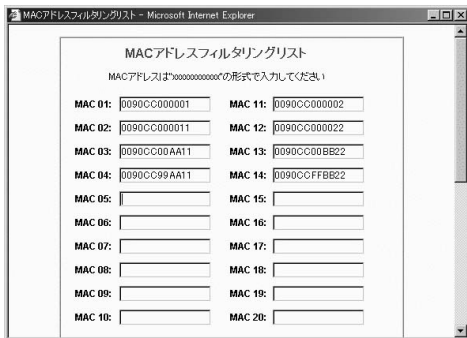
現在までに本製品APを介した通信を行っているワイヤレスLANクライアントのMACアドレスが表示されます。



「フィルタリングリスト」

MACアドレスフィルタリングルールに適用させるワイヤレスLANクライアントのMACアドレスを入力します。

MACアドレスは12桁英数半角（1～0、a～f）となります。



入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

画面が切り替わり、設定変更が完了します。

設定自体を終了するときは[ログアウト]ボタンを押してください。

13 ファームウェアアップデート

本製品はWEB ブラウザからファームウェアの更新ができます。

弊社のホームページから公開されると

「ファームウェアファイル」をダウンロードしてWWW設定画面上でアップグレードすることができ、WEBページからアップデートを行うので書き換えユーティリティなどのインストールも不要です。

*ファームウェアについて

弊社では機能追加・仕様変更などを施したファームウェアを順次リリースしてゆく予定です。

ただし、特に使用していて不具合がないようでしたらファームウェアを最新版にする必要はありません。

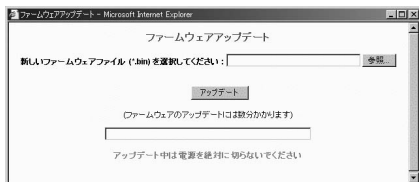
仕様変更などでお客様に必要な項目がある場合に限りアップデートするようにしてください。不用意にアップデート作業を行うと、本製品を破損する原因ともなりかねませんので慎重を心がけてください。

⚠ 注意

アップデート作業を行う前に、ダウンロードファイルに添付されている「readme.txt」など解説書をご一読ください。

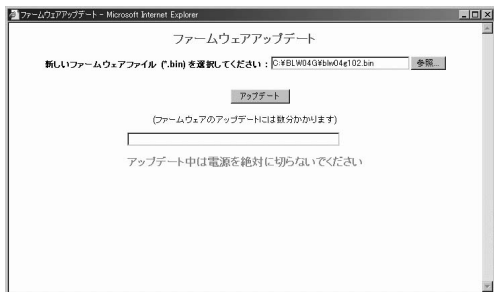
アップデート作業中に通信が途切れたりすると本製品が破損する恐れがあります。作業は有線LANで接続しているコンピュータから行うようにしてください。

ファームウェアアップデートの設定を行うには、WEB設定画面の左側にある「詳細機能設定」から「ファームウェアアップデート」をクリックします。



アップデート手順

1. 「ステータス表示」画面で、WAN側がインターネット接続されていないか確認します。
接続されている場合は、切断処理を行い、WAN側ポートからケーブルを外してください。
2. 「アップデート」画面上の「参照」ボタンをクリックして、ダウンロード・解凍されたファームウェアファイルを指定します。
指定したファイルが間違いないか、もう一度確認して「アップデート」ボタンをクリックします。



- 表示されているゲージがいっぱいになった後、本製品正面の「status」LEDが点灯・点滅していないことを確認してアップデート処理が終了します。

ファームウェアバージョンの確認方法

- ブラウザに「http://192.168.1.1」と入力してEnterキーを押して、BLW-04Gの設定画面にアクセスしてください。
- 「詳細機能設定」から「管理設定」をクリックしてください。図のような画面が表示されます。



- 「ファームウェアバージョン」に記載されている数字が、現在のBLW-04Gのファームウェアのバージョンになります。

ネットワークQ&A

1 ブロードバンドルータの色々な「？」について

インターネットの急速な普及により、ブロードバンドルータ（以下、BBルータ）を使用する場面が増えてきました。特に多く寄せられる、LAN全般や弊社製品を使用する際にぶつかる疑問点についていくつかまとめてみました。

ネットワークはよく解らない...という方は是非ご一読ください。弊社製品に対する理解を深められることでしょう。

Q BBルータの設定は接続するコンピュータに対して全部で行うのですか？

A いいえ

複数台接続している環境であっても、いずれか1台のコンピュータからBBルータの設定を行うだけで完了します。

補足

設定作業を行った1台でBBルータを介してインターネットにアクセスできるようになっていれば、その時点でBBルータの設定は完了したことになります。他のコンピュータから同じように設定を行う必要はありません。

例えば、2台のコンピュータのうち、1台はインターネットにアクセスできるが、もう1台はアクセスできないという場合は、BBルータではなくコンピュータ側に問題があることが考えられます。

Q インターネットに接続できないのに、どうやって設定画面にアクセスするんですか？

A インターネットへの接続と関係なく、設定画面にアクセスできます。

設定画面はBBルータの中にあります。BBルータの中に設定用のホームページが存在しアクセスすることで、BBルータの設定を行っているのです。

ですから、BBルータがインターネット（モデム）につながってなくてもコンピュータは設定画面にアクセスすることができるのです。

Q 「ブラウザ」ってなんですか？

A インターネット上のホームページ等を見るためのソフトです。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープ」等が代表的なソフトになります。

補足

BBルータのマニュアルでは「インターネットエクスプローラ」の画面が使われているので「ネットスケープではどうやって設定するんですか？」という質問も寄せられますが、例えば「yahoo」のホームページが「インターネットエクスプローラ」でも「ネットスケープ」でも見るができるように、BBルータの設定画面も問題なく「ネットスケープ」で表示することができます。

Q IPアドレスってなんですか？

A TCP/IP プロトコルを使ったネットワークにおいて、コンピュータごとに割り当てられる個別の数字のことを言います。

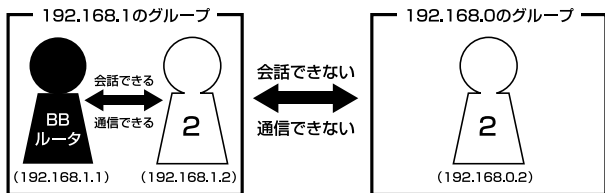
数字がちょっと変わるだけでアクセスできなくなったりする厄介なイメージがあると思いますが、簡単に考えるなら「学校のクラスと出席番号」に置き換えて考えると判り易いかと思います。

例えばA君とB君とC君がいて、A君とB君は「1-1」組でC君が「1-2」組の場合、A君とB君は同じ教室なのでいつでも話をすることができですが、C君は教室が別なのでA君達とは会えません。IPアドレスもほとんどそれと同じような理屈になっています。

実際のIPアドレスで例えるなら、BBルータのIPアドレスは出荷時には「192.168.1.1」というIPアドレスが設定されています。これは、BBルータ君は「192.168.1」組の出席番号「1」番という意味になります。このBBルータ君と話をするにはコンピュータも「192.168.1」組に入らないと教室が別になるので話ができません。

BBルータにアクセスするコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.2」であれば「192.168.1」組の出席番号「2」番になるので、そのコンピュータはBBルータ君と話をすることができます。もしコンピュータのIPアドレスが「192.168.0.2」だと、そのコンピュータは「192.168.0」組になるためBBルータ君とは教室が別になり、BBルータ君と話をするできません。

つまり、BBルータにアクセスするにはコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.**」という数字でなくてはならないのです。



上記の説明で「出席番号が同じになるとどうなるの?」という疑問を持った方もいると思います。

もし同じ出席番号の人が同じ教室に2人いたら混乱しますね? ネットワークもそれと同じで、IPアドレスは重複してはいけなくなっています。

同じ番号のコンピュータが存在した場合、「その番号を使っている人が他にいますよ」という内容の警告メッセージがコンピュータ上に表示されます。

ここまで読んでいただいた方はもうお判りだと思いますが、IPアドレス「AA.BB.CC.DD」の3つ目(CC)までがネットワークのグループを表していて、最後の数字(DD)がコンピュータごとに設定される個別の数字ということになります。

補足

厳密にはもっと色々なルールがあるのですが、BBルータの設定画面にアクセスするには少なくとも上記レベルのルールが判っていれば、トラブルに遭った時の対処や問題の切り分けに役立つと思います。

2 設定画面にアクセスできない

ここではBBルータの設定画面にうまくアクセスできない場合の主な確認点及び確認方法をまとめました。ご利用のコンピュータに該当する項目がないかチェックしてください。

Q 設定画面にアクセスできないのですが？

A LANランプ、IPアドレス、プロキシ、セキュリティソフトそれぞれの項目が正しく設定されていないとアクセスできません。もう一度設定を確認してみてください。また、BBルータとの通信が正常に行われていない可能性もあります。これはpingというコマンドを使って確認することができます。

確認!

LANランプ

LANランプは点灯していますか？

コンピュータが接続されて正常に通信ができる状態になると「LINK」と言われるランプが点灯します。

BBルータには「LAN」「Link/Act」「LAN LINK」等の名称で呼ばれるランプがついていますので、そのランプが点灯しているか確認してください。（詳しくはマニュアル1-4の「各部の名称」をご覧ください）

・点灯しない場合

ランプが点灯していない場合、BBルータとコンピュータは通信できる状態になっていませんので、設定画面にもアクセスできません。

いくつかの原因は考えられますが、まずはケーブルを交換してみてください。

正常にランプが点灯しているポートで使用中の、他のケーブルを使って接続してみてください。

ケーブル交換の後、正常にランプが点灯するようであれば、交換前に使用していたケーブルに問題がある（断線やクロスケーブルなど）ということになります。

確認!

IP アドレス

IPアドレスが正しく取得できていますか？

アクセスできない場合は、取得しているIPアドレスを確認してください。

BBルータには「192.168.1.1」というIPアドレスが出荷時に設定されており、BBルータにアクセスするにはコンピュータが「192.168.1.**」というIPアドレスを取得する必要があります（最後の「**」には任意の数字が入ります）。

異なるIPアドレス(210.119.**.**等)を取得している場合はBBルータの設定画面にはアクセスできません。

・確認方法

主なOSでの確認方法は以下のようになりますので、取得しているIPアドレスの確認を行ってください。

Windows/95/98/MEの場合：

1. 「スタート」 「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」 「WINIPCFG」と入力 「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には任意の数字が入ります）。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」 「プログラム」 「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には任意の数字が入ります）。

Macintoshの場合：

1. アップルメニューから「コントロールパネル」 「TCP/IP」を開いてください。
2. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には任意の数字が入ります）。

・まったく違うIPアドレスを取得している場合 (Windowsのみ)

確認したIPアドレスが「192.168.1.**」ではなく、まったく違うIPアドレスを取得している場合、以下の方法で取得しているIPアドレスを開放して、再度IPアドレスを取得しなおすことができます。

Windows/95/98/MEの場合：

1. 「スタート」 「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」 「WINIPCFG」と入力 「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更 「すべて開放」ボタンをクリックしてください。
3. 「IPアドレス」が「0.0.0.0」になったのを確認してから「すべて書き換え」ボタンをクリックしてください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば正しく取得できたことになります(**には任意の数字が入ります)

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」 「プログラム」 「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG /RELEASE」と入力し、Enterキーを押してください。
3. 再度「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば、正しく取得できたことになります(**には任意の数字が入ります)

BBルータと正常に通信していますか？

・接続確認方法（Windowsのみ）

BBルータと通信できているかどうかは「ping」というコマンドで確認することができます。

Windows 95/98/98SEの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウインドウが開きます。
2. ウインドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。
「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows MEの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウインドウが開きます。
2. ウインドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」を選択、「コマンドプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。
3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

・応答が「Request Timed Out」になる

「ping 192.168.1.1」と実行した時「Request Timed Out」と表示される場合は、IPアドレスが正しく取得できていないか、コンピュータのLANアダプタが正常に動作していない可能性が考えられます。

1. IPアドレスが正しく取得できているか確認してください。「IPアドレスが正しく取得できているか」に確認方法が記載されています。
2. LANアダプタが正常に動作しているか確認してください。確認方法はモデムに直接接続してインターネットにアクセスできれば正常です。

ブラウザのプロキシ (PROXY) 設定

不要な設定をしていませんか？

ブラウザのプロキシになんらかの設定が行われていると、アドレスに指定された所に接続する前に、プロキシで設定した所に接続しようとしてしまうため、設定画面にアクセスできない場合があります。その場合は以下のような手順でプロキシの設定を解除してください。

インターネットエクスプローラの場合（5.0以降）：

1. メニューの「ツール」 「インターネットオプション」を選んでください。
2. 「接続」タブをクリック 「LANの設定」ボタンをクリックしてください。
3. 「自動設定」と「プロキシサーバ」のチェックボックスでチェックされている項目がありましたら、全ての項目のチェックを外してください。
4. 「OK」ボタンをクリック 「ローカルエリアネットワークの設定」ウインドウを閉じてください。
5. 再度「OK」ボタンをクリック 「インターネットオプション」ウインドウを閉じてください。
6. 一度インターネットエクスプローラを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

ネットスケープの場合：

1. メニューの「編集」「設定」を選択してください。
2. 「詳細」「プロキシ」を選択、「インターネットに直接接続する」をチェックしてください。
3. 「OK」ボタンをクリック ウィンドウを閉じてください。
4. 一度ネットスケープを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

セキュリティ関連ソフトの影響

ウイルスバスターやノートンアンチウイルス等、最近のウイルスチェックソフトには簡易ファイアウォールという機能を搭載した物が増えています。

ファイアウォールはアクセス許可をしていないIPアドレスからのパケット(通信)を遮断したりする機能です。

有効になっていると稀にBBルータとの接続時にファイアウォール機能が働いて設定画面がうまく表示されない事や、設定内容を保存するとエラーになること等があります。

ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティソフトをご使用になられている場合は、それらのソフトを停止させてみてください。停止方法が判らない場合は、各ソフトウエアのマニュアルをご覧ください。

3 インターネットにアクセスできない

ここではBBルータの設定を行ってもインターネットへのアクセスができない場合の、主な確認点及び確認方法をまとめました。

接続方法別にまとめてありますので該当する項目がないかチェックしてください。

設定画面にアクセスができない場合は、125ページ「設定画面にアクセスできない」をご覧ください。

共通項目 事前確認編

どの接続方法にも共通する、最初に確認すべき点です。

Q 設定画面ではすべて正しく設定できたのですが、なぜインターネットにアクセスできないのでしょうか？

A BBルータが正しく接続されていないと通信が行われないので、インターネットにはアクセスできません。以下を確認してください。

確認!

WANランプ

WANランプは点灯していますか？

BBルータとモデムを接続して正常に通信ができる状態になると、BBルータの「WAN」のランプが点灯します。

・点灯しない場合

「WAN」のランプが点灯しない場合は、モデムと正常に接続していないことを表しますので、その状態ではインターネットに接続することができません。

本製品は「auto - MDI/MDI」に対応しているので、ケーブルの種類（ストレート/クロス）の違いは関係なくなります。

ポートにケーブルのコネクタが正しく挿さっているか再度確認してください。

それでも、点灯しない場合は使用しているLANケーブルを変えてみる必要があります。

接続設定フレッツ編

ここではNTT提供のフレッツ・ADSL、Bフレッツ等のようなフレッツ接続ツールを利用してインターネットにアクセスする場合の、インターネット接続に関する主な確認点をまとめました。

接続ツール等を使わない場合は141ページ「接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編」をご覧ください。

Q インターネットへの接続や切断はどうするの？

A BBルータが回線の状態を検知し、自動的に接続・切断を行います。

NTT「フレッツ」を利用されているほとんどの方が、NTTのフレッツ接続ツールを使ってインターネットに接続し、アクセスをやめる時は切断処理をしていたと思いますが、「BBルータを使う場合はどうやって接続するの？」という疑問をもたれる方もいると思います。

BBルータ使用の場合、コンピュータがインターネットへ接続しようとする、そのコンピュータはBBルータに接続のための信号を送信します。

BBルータはその信号を受信すると、回線が切断状態の時には自動的に接続を開始します。そして、一定時間インターネットへの接続が発生しない場合、自動的に切断を行うようになっています。

つまり、ユーザーは接続や切断を意識することなく、インターネットへアクセスできるのです。

注意

上記の動作は出荷時の設定で使用したことになります。設定内容によっては上記のような動作にならない場合もありますのでご注意ください。

Q 今までフレッツ接続ツールを使っていたのですが、BBルータを設置した場合にインターネット接続する時の確認点はなんですか？

A ユーザID、パスワード、PPPoE設定・接続、接続ツールなどです。

確認!

ユーザID、パスワード

ユーザIDとパスワードに間違いはないですか？

フレッツ接続の場合、接続のためにユーザーID（ログインID）とパスワード（ログインパスワード）をBBルータに設定しますが、その入力を間違えると正常に接続できません。

入力ミスは意外と多く、再度入力し直すと接続できることが度々ありますので、入力した内容に間違いがないか、今一度確認してください。

「1（いち）」 「l（エル）」 「0（ゼロ）」 「O（オー）」の間違いなど。

・フレッツの場合は「@」以降の入力が必須です

フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、ユーザID（ログインID）やパスワード（ログインパスワード）の入力が必須です。

特に注意すべき点として、ユーザIDの設定ではご利用になるプロバイダごとに、ユーザIDの後ろに「@****.ne.jp」というような設定入力が必要です。

プロバイダからの接続資料にはユーザIDの表記で「@」以降の部分が記載されていない場合もあります。

その場合はNTTからのフレッツ接続資料の中に、プロバイダ別のドメイン名リストがありますので、そちらで「@」以降の表記をご確認ください。

PPPoE接続の結果を確認してください

BBルータにより確認方法が異なってくるため詳細は割愛しますが、PPPoEの接続設定の後には接続確認が大抵の場合行われます。

「接続診断」という機能を持ったBBルータの場合は、その機能を使って接続結果が良好かどうかを確認してください。

設定の最後で自動的に接続し、その結果を画面上に表示するタイプのBBルータの場合、接続に成功したというメッセージが表示されるか確認してください。

・接続テストの結果、接続できなかったという場合

「PADI-TIMEOUT」や「サーバからの応答 NG」等になる時は、PPPoE設定の「ユーザID」の設定が正しくても接続できないことがあります。

その場合、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態です30～60分ほどそのままにしておいてください。

30～60分ほど経過しましたらモデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

フレッツ接続ツールは使いません

BBルータを使用する場合は本冊子冒頭の「インターネットへの接続や切断はどうするの？」にも書きましたように、フレッツ接続ツールは使用しません。

もし現在、BBルータの設定後にフレッツ接続ツールを起動してインターネットへの接続をしている場合は、フレッツ接続ツールは使用せずにブラウザを起動して、インターネットに接続できるか確認してください。

正しく接続設定が行われていれば、フレッツ接続ツールを使用しないで接続できます。

・ PPPoE接続だけど接続ツールを使わない場合の設定は？

ADSL回線でPPPoE接続だが、モデムにコンピュータを接続してインターネットにアクセスする際、接続ツール等を使用しないという場合は、ご利用のモデムにBBルータ機能がついている可能性が考えられます。その場合は「PPPoE接続」ではありませんので、次項の「アッカやイー・アクセスをご利用の場合」を参考に設定を行ってください。

アッカやイー・アクセスをご利用の場合

アッカやイー・アクセスはADSL回線ですが、提供されているモデムにルータ機能がついています。複数のコンピュータで利用する場合は、ハブがあればアクセスできるため本来BBルータは必要ありません。

しかし、どうしてもBBルータを使用したいという場合は、BBルータのIPアドレスを変更することで利用可能になります。

BBルータのIPアドレスは本冊子の冒頭でも触れているように「192.168.1.1」になります。もし、ご利用のモデムも同じく「192.168.1.1」というIPアドレスを持っていて、しかも設定画面にアクセスした時にモデムの設定が行えるようだと、BBルータのWAN側とLAN側が同じようなアドレス（192.168.1.**）になってしまい、BBルータが混乱して正常な動作ができなくなります。

ハブではなくBBルータを使用したい場合はBBルータのLAN側のIPアドレスを、「192.168.2.**」等のようにWAN側のIPとは別のアドレスに変更すれば、接続できるようになります。

接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編

Q ケーブルTVインターネットやYahoo!BBを利用した場合に、インターネット接続する時の確認点はなんですか？

A IPアドレスの取得、ケーブルTVインターネットの場合はケーブルの接続方法にもご注意ください。

IPアドレスの取得

・ケーブルTVやYahoo!BBをご利用の場合

ケーブルTVやYahoo!BBを利用する場合は「通常接続（DHCP接続）」という方式で接続を行います。

各BBルータのマニュアルをご覧くださいと判るかと思いますが、この場合設定らしい設定はほとんど必要ありません。

インターネットに接続するには、BBルータがプロバイダからIPアドレスを取得しなければいけませんので、BBルータのWAN側ポートにIPアドレスが表示されているか確認してください。

確認方法はBBルータによって画面が異なりますので詳細は割愛しますが、「ステータス表示」や「アカウント管理」の画面で確認することができます。

ケーブルの接続

・WAN側ポートにIPアドレスが割り当てられない時

ケーブルTV等を利用したPPPoE以外のインターネット接続方法の場合、BBルータを接続する前まではコンピュータをモデムに接続して利用していることが多いと思います。

ケーブルをモデムから外してそのままBBルータに接続してしまうと、本来BBルータに割り当てられるはずのIPアドレスをコンピュータが持ったままになってしまい、BBルータがモデムからIPアドレスを正しく取得できないことがあります。

その場合はコンピュータを再度モデムに接続しなおしていただき、一度コンピュータを終了させる処理を行ってください。

モデム接続後にコンピュータを終了させれば、通常は取得したIPアドレスは開放されます。コンピュータの電源が切れたらモデムとBBルータを接続し、モデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

・それでも接続できない場合

モデムにコンピュータを接続した後、一旦終了させてからモデムとBBルータを接続し、電源を入れなおしてもインターネットに接続できない場合は、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態でも60分ほどそのままにしておいてください。

モデムを含めた全ての機器の電源を長時間切ることによって、プロバイダ側のサーバが記憶している情報が削除されて、初めて接続した時のような状態で接続することができます。60分ほど経過しましたらモデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

共通項目 最終確認編

どの接続方法にも共通する、最後に確認すべき点です。

Q 事前確認、接続設定と確認して問題がなかったのですが、それでもアクセスできません。ほかに確認点はありますか？

A コンピュータのIPアドレスが自動取得である事と、DNSサーバアドレスの設定を再確認してください。

確認!

自動取得

コンピュータのIPアドレスは自動取得になっていますか？

コンピュータのIPアドレスを手動で設定する場合、正しく設定されていないと設定画面にはアクセスできてもインターネットにアクセスできないことがあります。

手動設定の場合の注意点は145ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？」を参照していただき、コンピュータのIPアドレスが正しく自動取得になっているか、マニュアルを再度確認してください。

IPアドレスでホームページにアクセスしてみてください。

ブラウザのアドレスに「http://210.197.75.205」と入力してEnterキーを押していただき、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。

「http://210.197.75.205」だとアクセスできて「http://www.planex.co.jp」だとアクセスできない場合は、DNSサーバアドレスが正しく設定できていない可能性が考えられます。次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？」を参考に設定を行ってください。

4 その他良くあるお問い合わせについて

ここでは上記以外に多数寄せられる質問について、いくつかまとめてみました。

Q IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？

A IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバアドレスが正しく設定されているか再確認してください。

IPアドレスの基本的なルールは冒頭の「IPアドレスってなんですか？」の中で触れていますが、設定画面にアクセスする場合に必要な最低限の説明だけなので、インターネットに接続する場合の設定については不十分になっています。手動でIPアドレスを設定する場合の注意点は以下のようになります。

IPアドレス：

IPアドレスの設定については123ページ「IPアドレスってなんですか？」をご覧ください。

サブネットマスク：

通常は「255.255.255.0」と指定してください。

デフォルトゲートウェイ：

(MacOSでは「ルータアドレス」と言います)

BBルータのIPアドレスが入ります。出荷時の設定は「192.168.1.1」になります。ここが正しく設定されていないとインターネットには接続できません。

DNSサーバアドレス：

(MacOSでは「ネームサーバアドレス」と言います)

ご利用になっているプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。

BBルータによっては「デフォルトゲートウェイ」と同じIPアドレスで問題ない場合もありますが、判らない場合はプロバイダ指定のDNSサーバアドレスを設定するのが確実です。

ここが正しく設定されていないと「www.planex.co.jp」という名前(ドメイン名)でホームページにアクセスできなくなります。

Q BBルータに接続しているコンピュータ同士の通信ができません。

A pingを打って通信確認ができれば、BBルータの問題ではありません。OS側の設定の問題だと思われます。

インターネットへの接続は問題ないのに、コンピュータ同士のファイル共有等ができないという問い合わせも良く寄せられます。コンピュータ同士のLAN接続について、基本的にBBルータは関与しておりません。

BBルータの通信確認

コンピュータ同士が本当にアクセスできていないのか確認する方法として、**ページ「設定画面にアクセスできない」の中に、取得しているIPアドレスを確認する方法と、指定のIPアドレスにpingを打つ方法を紹介していますので、そちらを参考にそれぞれのコンピュータが取得しているIPアドレスを確認して、相手のコンピュータに対してpingを打ってみてください。

「Reply from・・・」が帰ってくればコンピュータ同士の接続は問題なくできていることになりますので、ファイル共有等ができないのはBBルータの問題ではなくOS側の設定の問題ということになります。

OS側の要因

pingの結果が「Request timed out」だったり、pingが通っても接続できない場合に考えられる一つの要因として、ファイアウォールソフトの存在が挙げられます。ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティのソフトには、簡易ファイアウォール機能を有している物があります。

使用しているコンピュータにそれらのソフトをインストールしている場合、ファイアウォールが有効になっていると、たとえ自宅の中の同じネットワーク上のコンピュータであっても、ファイアウォールから見ると第三者がそのコンピュータにアクセスするように映るため、アクセスされないように遮断してしまいます。

該当するようなソフトを利用されている場合は、それらのソフトを停止させた状態で再度pingコマンドを打ち、通信状態を確認してみてください。

停止させるとpingが通るような場合は、それらソフトのファイアウォールに他のコンピュータのIPアドレスを設定し、信頼するコンピュータとして認識させることで、ファイアウォールを有効にしながらファイル共有ができるようになります。

Q コンピュータの電源をOFFにしたのに、BBルータのLANのランプがついたままですが故障でしょうか？

A 故障ではありません。「Wake On Lan」機能によるものです。

最近のLANアダプタには「Wake On Lan (以下WOL)」という、他のコンピュータから電源をON/OFF操作するための機能がついている物が多くなっています。

「WOL」に対応したLANアダプタでその機能が有効になっている場合、電源ONの信号を受信できるように待機状態になっている必要があるため、コンピュータ自体の電源はOFFになっていても、LANアダプタはBBルータのハブとLINKした（LANのランプが点灯した）状態になります。つまりBBルータ側ではどうすることもできません。

消えるようにするには「WOL」の機能をOFFにする必要がありますので、ご使用のLANアダプタのメーカーか、あるいは標準でコンピュータに搭載されているLANアダプタの場合はコンピュータメーカーに機能を無効にする手順をお問い合わせください。

工場出荷時設定

B

工場出荷時設定

項目	説明
ログインパスワード	password
LAN側	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバ設定	有効
DHCP割り当て範囲	192.168.1.100~149
DHCPリース時間	60分
ワイヤレスLAN	
ESS-ID	BLW-04G
無線ch	6
ESS-IDを隠す	無効
WEP	無効
WAN側	
接続方法	通常接続 (DHCP接続)
DHCPクライアント	有効
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS	自動取得
ホスト名	(空欄)
ドメイン名	(空欄)
管理者設定	
ステルスモード	有効
リモートログイン	無効
ログインポート	8080番
ローカルサーバ設定	なし
バーチャルコンピュータ設定	なし
ルーティング設定	未設定
フィルタリング設定	なし
DynamicDNS機能	無効
UPnP機能	有効
ログ機能	無効

仕様

C

仕様

項目	説明
有線部	
準拠する規格	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX
伝送速度	全ポート10/100Mbps
ポート	WAN側 RJ- 45 ×1 ポート (Auto MDI/MDI-X) LAN側 RJ- 45 ×4 ポートスイッチングハブ (Auto MDI/MDI-X)
無線アクセスポイント	
準拠する規格	ワイヤレスLAN標準互換プロトコル準拠 IEEE802.11b 11/5.5/2/1Mbps IEEE802.11g<draft> 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps ARIB STD-T66 (2.4GHz帯小電力データ通信システム規格)
伝送速度	IEEE802.11b:11/5.5/2/1Mbps IEEE802.11g:54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
周波数帯	2.4GHz帯/13チャンネル
通信距離	最大300m ※遮蔽物の無い見通し距離環境により上記距離を満たせない場合があります。
アンテナタイプ	ダイポールアンテナ
LED	「POWER」「STATUS」「DMZ」 ・WLAN 「act」「Link」 ・WAN 「100M」「FDX/Col.」「Link/act」 ・LAN 「100M」「FDX/Col.」「Link/act」
サイズ(W×D×H)	W151×H182×D32mm (アンテナ部を除く)
重量	400g
電源規格	DC 5V, 最大2.0A
動作環境	温度0~40℃、湿度35~80% (結露なきこと)
EMI	FCC Class B, CE, VCCI

MEMO

This image shows a single page of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, leaving small margins at the top and bottom. There are no vertical margin lines, and the page is completely blank except for the lines themselves.

MEMO

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

MEMO

MEMO

[illegible]

MEMO

MEMO

This image shows a single page of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a template for handwriting practice. There are no margins, text, or other markings on the page.

MEMO

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/user/>

弊社へのお問い合わせ

弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

PCIダイレクト

<http://direct.planex.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

ご質問/お見積もりフォーム

<http://www.planex.co.jp/lan.htm>

技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

お問い合わせフォーム

<http://www.planex.co.jp/support/techform.htm>

受付：24時間

電話

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

* 祝祭日および弊社規定の休業日を除く

FAX

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

お問い合わせ前のごお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。

お客様のご協力をお願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名(Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境(回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容(現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

ブラネックスコミュニケーションズ

<http://www.planex.co.jp/>

注) 上記内容は2002年5月現在の情報です。内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

質 問 表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズテクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名	54Mbps 無線LANブロードバンドルータ
型番 <small>Product No.</small>	BLW-04G
製造番号 <small>Serial No.</small>	

ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

ソフトウェア

ネットワーク OS		バージョン
OS		バージョン

質問内容

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

保証規定

ブラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

初期不良・修理依頼の手順(センドバック方式)

弊社では、センドバック(先に修理依頼品をお送りいただき、弊社より修理完了品をご返却する)方式による修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、弊社サポートセンターまでご連絡ください。お送り先をご案内させていただきます。

ブラネックスコミュニケーションズ(株) サポートセンター

フリーダイヤル・0120-415977 FAX・03-5614-1018

Web・<http://www.planex.co.jp/support/repair.htm>

2. ご案内に従って、修理依頼品を弊社リペアセンターまでお送りください。

(誠に勝手ながら、リペアセンターへお送りいただく際の送料はお客様のご負担でお願いいたします。)

3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

保証書

弊社の保証規定を必ずご覧下さい

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日 より 1年間
製品名 Product name	54Mbps 無線LANブロードバンドルータ
型番 Product No.	BLW-04G
製造番号 Serial No.	

フリガナ	
会社名	
部署名	
フリガナ	
お名前	
フリガナ	
ご住所	<div>□□□ - □□□□</div> <div>都 道 府 県</div>
TEL	
FAX	
メールアドレス	

ご購入代理店名 所在地	
----------------	--

本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

